Annual Report 2020

2020年度
事業報告書

付：2021年度事業計画・予算及び役員・委員名簿

Rotary Districts of Japan

公益財団法人
ロータリー米山記念奨学会
ロータリー日本国内全地区合同プロジェクト

Rotary Yoneyama Memorial Foundation

CONTENTS

はじめに

2020年度の御支援への感謝を込めて　理事長　齋藤　直美

設立趣意書 …… 2

目的と事業 …… 3

事業・会計報告

2020年度　事業報告 …… 5

2020年度　会計報告 …… 35

事業計画・予算

2021年度　事業計画 …… 39

2021年度　予算 …… 55

2021年度　主要年間計画表 …… 56

役員・委員

理事・監事 …… 59

評議員 …… 61

専門委員会委員 …… 62

米山記念奨学委員長・米山委員 …… 63

奨学生・学友

国・地域別 奨学生・学友累計一覧 …… 65

学友会一覧 …… 66

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会組織図 … 67

職員 …… 67



2020年度の御支援への感謝を込めて

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
理事長　齋藤　直美

昨年から続くコロナ禍の中、幕を開けた2020～21年度は、ロータリー米山記念奨学事業の運営にも大きな影響を与えました。感染拡大防止の観点から、理事会、評議員会は書面決議に、また、常務理事会、専門委員会、次期地区米山記念奨学委員長セミナーなどの会合は、原則としてオンライン会議となりました。米山奨学生をお預かりいただく各地区でも、オリエンテーションや面接試験などの実施にあたって、感染防止など様々なことに配慮され、言い尽くせぬご苦労があったことと思います。何よりも、国を超えた相互理解を目的とする当事業の最大の特長である、奨学生とロータリーとの多様な交流の機会をもつことがままならなくなり、地区や世話クラブの皆様がどれほどもどかしい思いをされたことか、想像に難くありません。このような困難な状況にあっても、米山奨学生・学友に惜しみない愛情を注ぎ、温かく育てていただいておりますこと、また、財政面でも昨年度と同等の多大なるご支援をいただきましたこと、関係する全ての皆様のご尽力に衷心より感謝申し上げます。

長く続くトンネルの先に希望の光を与えてくれるのは、やはり学友の存在です。2021年6月の台北国際大会に合わせて企画されていた世界米山学友の集い「出会い in 台湾」は、残念ながら開催見合わせとなりましたが、早くも関東の米山学友会が協力し、次の集いの開催に向け、準備を始めています。「再会 in 関東」をテーマに2023年8月、茨城県つくば市での開催を予定していると聞き、今から私も、学友らとの再会が楽しみでなりません。米山学友の感謝の思いの強さ、深さには、いつも心を動かされます。台湾学友会では10年以上、そして、韓国学友会でも5年前から、日本への恩返しとして、学友が寄付を出し合い、日本からの留学生に奨学金を支給して支援しています。また日本国内にも、地域で活躍する学友がたくさんいます。その中でも選りすぐりの学友を「よねやま親善大使」として任命し、地区、クラブでその活躍や感謝の思いをスピーチしてもらっています。現在は、第4代よねやま親善大使として3人の学友が活動中です。彼らのスピーチを聞けば、この歴史ある奨学事業の成果・真価を改めて実感していただけるものと思います。「よねやま親善大使」や「ホームカミング制度」を利用して、全てのクラブ、分区、地区の集まりで、活躍する米山学友に皆様の前でお話する機会を与えていただけますよう、ぜひご検討ください。今年も倍旧のご支援とご協力を何とぞよろしくお願いいたします。

設　立　趣　意　書

財団法人　ロータリー米山記念奨学会

この法人は、主としてアジア諸国、又はその他のロータリー所在国の学生又は学者に対し、わが国において勉強又は研究するための奨学金を支給し、よってロータリーの理想とする国際理解と親善に寄与することを目的として設立する。

この法人は、昭和24年に東京ロータリー倶楽部が設定し、昭和32年に全国のロータリークラブに参加を求めて以来、逐年発展し、今や在日全ロータリークラブの共同事業となり、国際留学生に対する奨学金の支給を通じて、所期の目的たる国際理解と親善にも多大の成果を収めつつある、ロータリー米山記念奨学会の事業と財産を継承し、法人化によってその基礎を確立し、今後一層奨学事業の発展を期するため設立されるものである。

この法人は、全国ロータリークラブの寄付を主たる財源とし、ロータリー会員によって運営され、ロータリー目的達成に寄与することを目的としている。

昭和42年

公益財団法人
ロータリー米山記念奨学会の
目的と事業

米山記念奨学事業は、ロータリーの理想とする国際理解と相互理解に努め、国際親善と交流を深めるために優秀な留学生を支援し、国際平和の創造と維持に貢献することを目的としています。

米山奨学生は奨学期間中にロータリーの例会やロータリーの奉仕活動に参加することによって、日本の文化、宗教、習慣などを学び、社会参加と社会貢献の意識を育て、将来、ロータリーの理想とする国際平和の創造と維持に貢献する人物となることが期待されます。

米山記念奨学会では、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として、日本で学ぶ外国人留学生に対して奨学金を支給しています。

1967年に財団法人として認可され、また、2012年1月4日付にて公益財団法人に移行しました。

これまでに129の国と地域から22,267名の奨学生を支援してきました。

規模と実績ともに民間で最大の留学生奨学団体となっています。

2020年度
事業・会計報告

（2020年７月１日～2021年６月30日）

Ⅰ.奨学生の募集と選考 5

Ⅱ.奨学生と学友（元奨学生） 15

Ⅲ.世話クラブとカウンセラー活動 19

Ⅳ.広報活動 20

Ⅴ.寄付の推進 25

Ⅵ.会議・委員会・セミナーの開催 27

Ⅶ.庶務事項 32

Ⅷ.会計報告 35

Ⅰ. 奨学生の募集と選考

種　類	2020学年度	2021学年度	月額奨学金	期　間
学部課程	345名	372名	10万円	2年以内
	学部3,4年および医、歯、獣医学系学部課程5,6年 ＊ただし、修業年限によって対象学年が異なる場合がある。			
修士課程	241名	257名	14万円	2年以内
	大学院修士課程1,2年			
博士課程	237名	239名	14万円	2年以内
	大学院博士課程2,3年および医、歯、薬、獣医学系博士課程3,4年 ＊ただし、修業年限によって対象学年が異なる場合がある。			
地区奨励	17名	11名	学部相当：10万円 そ の 他：7万円	学部相当：最長2年 そ の 他：1年
	短期大学、高等専門学校、専修学校、準備教育課程			
クラブ支援	13名	4名	14万円	1年 または6ヵ月
	学部・修士課程の最終学年に在籍する奨学生で、同地区および近隣地区所在の大学の上級課程進学者。博士課程最終学年に在籍する奨学生で、博士号取得見込みの者。 海外応募者対象奨学金終了後、進級を予定する者。			
海外応募者対象※1	27名	26名	学　部：10万円 大学院：14万円	学部・大学院2年間
	申込時点で海外在住で、渡日前入学制度によって学部、大学院入学予定者。			
海外学友会推薦※2	1名	1名	14万円	1年
	台湾、韓国学友会が組織する選考委員会より推薦された台湾、韓国の大学・研究機関に所属する上級研究者（博士号取得者）。			
合　計	881名	910名		

注：「学年度」は4月から3月の1年間。ロータリー年度とは異なる。
※1：海外応募者対象奨学金は、4月採用に加え、9月、10月採用を含めてカウント。
※2：海外学友会推薦奨学生の奨学期間は、毎年7月～翌年6月終了の1年間。このため、前年度の採用奨学生を含めてカウント。

1. 2021学年度奨学生数と選考

(1) 応募と選考

2021学年度奨学生採用数は、前学年度860名から増やして890名枠とし、910名の採用となりました。

採用枠に対して採用が20名多いのは、休学延長３名と、地区奨励奨学生および半年の奨学期間の奨学生を１名枠で２名採用した増加分27名の計30名から、第2710地区枠２名の未消化、海外応募者対象別枠６名の未消化、海外学友会推薦奨学生の３名枠のところ２名の未消化の超過の計10名の未消化分を差し引いた結果です。

【2021学年度奨学生採用枠・採用数・応募数】

<table>
<tr><th>種類</th><th>採用枠</th><th colspan="2">採用数(前年度)</th><th>応募方法</th><th>審査・選考</th><th>応募数(前年度)</th></tr>
<tr><td>学部課程</td><td rowspan="6">855</td><td rowspan="5">883(853)
継続:245
新規:638</td><td>372(345)</td><td rowspan="4">指定校
推薦</td><td rowspan="6">採用時在籍校が所在するロータリー地区選考委員会</td><td rowspan="4">1,428(1,402)
【指定校576(558)】</td></tr>
<tr><td>修士課程</td><td>257(241)</td></tr>
<tr><td>博士課程</td><td>239(237)</td></tr>
<tr><td>地区奨励</td><td>11(17)</td></tr>
<tr><td>クラブ支援</td><td>4(13)</td><td>クラブ推薦</td><td>7(18)</td></tr>
<tr><td>海外応募者対象
(枠内)</td><td>0(0)</td><td rowspan="2">自由応募</td><td rowspan="2">65(101)
＊無資格を除く</td></tr>
<tr><td>海外応募者対象
(枠外)</td><td>32</td><td colspan="2">26(27)
継続:16
新規:10</td></tr>
<tr><td>海外学友会推薦</td><td>3</td><td colspan="2">1(1)
継続:0
新規:1</td><td>海外学友会
推薦</td><td>海外学友会
選考委員会</td><td>1(1)</td></tr>
<tr><td>合計</td><td>890</td><td colspan="2">910(881)</td><td>—</td><td>理事会が
最終選定</td><td>1,501(1,522)</td></tr>
</table>

①「学部・修士・博士課程奨学金」および「地区奨励奨学金」の募集と選考

指定校推薦制度により応募を受け付け、地区選考委員会の審査・面接試験によって、新規奨学生634名が採用されました。

■地区奨励奨学金制度

大学・大学院以外の学校を指定校とする制度です。2021学年度新規採用は、13地区でこの制度を導入し、５地区８校10名が採用されました。また、2510、2560、2600、2680、2710の５地区６校で、高専のうち学部相当の専攻科のみを指定しましたが、採用はありませんでした。

2021学年度		被推薦枠	申込数	採用数
2510	函館工業高等専門学校	1	0	0
	苫小牧工業高等専門学校	1	0	0
2520	仙台高等専門学校	1	1	0
2530	国際ビジネス公務員大学校	4	4	2
	国際情報工科自動車大学校	4	4	2
2560	長岡工業高等専門学校	1	0	0
2600	長野工業高等専門学校	1	0	0
2660	OCA大阪デザイン&IT専門学校	2	2	1
	大阪ECO動物海洋専門学校	2	0	0
	大阪IR&ウェディング・ホテル専門学校	2	0	0
	大阪アニメ・声優&eスポーツ専門学校	2	0	0
	大阪キャリナリー製菓調理専門学校	2	0	0
	大阪スクールオブミュージック専門学校	2	0	0
	大阪ダンス&アクターズ専門学校	2	0	0
	大阪ハイテクノロジー専門学校	2	0	0
	大阪日本語教育センター	4	1	0
	放送芸術学院専門学校	2	0	0
2680	公益財団法人PHD協会	4	4	1
	明石工業高等専門学校	1	0	0
	神戸YMCA学院専門学校	1	1	0
	阪神自動車航空鉄道専門学校(※)	1	1	1

2021学年度		被推薦枠	申込数	採用数
2690	津山工業高等専門学校	1	1	1
	米子工業高等専門学校	1	0	0
2710	呉工業高等専門学校	1	0	0
	広島YMCA専門学校	2	1	0
2720	中九州短期大学	2	0	0
	別府溝部学園短期大学	2	2	0
	熊本高等専門学校	3	0	0
2790	木更津工業高等専門学校	2	0	0
2800	山形県立米沢女子短期大学	1	0	0
2820	アール医療福祉専門学校	5	5	1
	駿優国際医療ビジネス専門学校(※)	5	1	1
13地区	32校	67	28	10

表中(※)印は初指定校

■他地区に所在する学校指定校とする制度（地区を越える指定）

2021学年度は、５地区が導入し、５地区７校11名が採用されました。

2020学年度		被推薦枠	申込数	採用数
2570	埼玉大学(2770)	2	1	1
2590	東京都市大学(2750)	1	0	0
	明治学院大学(2750)	2	1	0
	慶應義塾大学(2750)	3	3	0
2750	東京藝術大学(2580)	3	3	1
	学習院大学(2580)	3	3	1
	早稲田大学(2580)	4	4	1
2770	芝浦工業大学(2580)	3	3	1
	芝浦工業大学(2750)	3	2	0
2800	東北大学(2520)	1	0	0
2820	流通経済大学(2790)	6	3	2
	東京藝術大学(2580)	3	3	1
6地区	12校	34	26	8

2021学年度		被推薦枠	申込数	採用数
2570	埼玉大学(2770)	2	2	1
2590	慶應義塾大学(2750)	3	3	2
	東京都市大学(2750)	1	0	0
	明治学院大学(2750)	2	1	0
2750	学習院大学(2580)	2	2	1
	早稲田大学(2580)	3	3	2
	東京藝術大学(2580)	3	3	2
2770	芝浦工業大学(2750)	3	2	1
	芝浦工業大学(2580)	3	3	0
2820	東京藝術大学(2580)	3	0	0
	流通経済大学(2790)	7	3	2
5地区	11校	32	22	11

■指定校に対する「地区からの選考の目安」提示地区

32（前年33）地区が目安を明示しました。指定校に対しての指定校通知において地区の採用方針として伝えられました。最も多く提示された項目は、「国籍割合への配慮」29（31）、「ロータリー活動への積極性」28（24）、「日本語能力」20（20）となりました。

項目／年度	2017	2018	2019	2020	2021
提示地区数	31	30	34	33	32
国籍割合への配慮	31	30	32	31	29
日本語能力	19	19	22	20	20
うち日本語能力検定2級程度の実力者	1	1	1	0	1
最終学年在籍者	13	12	11	7	5
奨学期間	13	14	19	14	15
4月入学	7	7	8	8	6
学部生より大学院生優先	6	3	3	3	3
ロータリー活動への積極性	24	22	29	24	28
将来日本と母国との親善を深めようとする者 国際社会で活躍し両国の懸け橋となる	12	12	11	10	14
協調性・コミュニケーション能力	10	8	7	7	6
居住地指定（地区内等）	4	4	4	4	4
地域社会への参加	0	0	0	0	1
クラブでのスピーチ	0	0	0	0	1
その他	13	15	19	24	11

②クラブ支援奨学金

「クラブ支援奨学金」は、現役奨学生の奨学期間を特別に延長する制度で、その応募は世話クラブ推薦によって行われます。2021学年度採用では、５地区７クラブからの応募があり、４地区４名が合格しました。

年度	申込数		博士課程最終学年: 合格数／申込数	※1 修士、博士課程 進学・進級: 合格数／申込数	合格者数
2006	35	15地区35クラブ	13／26名	1／9名	14名
2007	24	12地区24クラブ	10／12名	5／12名	15名
2008	14	9地区14クラブ	4／7名	5／7名	9名
2009	17	8地区17クラブ	4／6名	8／11名	12名
2010	17	11地区17クラブ	7／8名	3／9名	10名
2011	12	8地区12クラブ	5／5名	4／7名	9名
2012	12	6地区12クラブ	7／7名	2／5名	9名
2013	11	9地区11クラブ	3／3名	5／8名	8名
2014	13	9地区13クラブ	7／7名	3／6名	10名
2015	9	7地区9クラブ	3／3名	5／6名	8名
2016	8	5地区8クラブ	2／3名	3／5名	※2 5名
2017	4	3地区4クラブ	0／1名	2／3名	2名
2018	14	9地区14クラブ	4／6名	7／7名	※3 12名
2019	10	9地区10クラブ	2／2名	7／8名	9名
2020	18	7地区18クラブ	7／9名	6／9名	13名
2021	7	5地区7クラブ	1／2名	3／5名	4名

※一覧は、10月採用を含まない。
※1 2006学年度から博士課程最終学年の他に、修士および博士課程進学者にも応募資格を拡大した。
※2 2015学年度採用で休学し2016学年度に延長継続した1名は含まない。
※3 2016・2018学年度合格者数は、修士課程最終学年在籍者のクラブ支援特例申請者の合格を含む。

③海外学友会推薦奨学金

2020学年度採用の韓国学友会推薦奨学生は、新型コロナウイルス感染症に関する水際対策により入国できない状況が続いたことから、合格辞退となりました。2021学年度は、2020年７月に各学友会へ募集要項を配布し、現地にて募集した結果、台湾からは応募がなく、韓国で１名の応募がありました。応募者は、韓国学友会選考委員会の審査・面接を経て推薦者が選定され、最終的に当会理事会にて合格者１名が決定しました。

年度	採用数/採用枠	台湾 合格数/申込数	韓国 合格数/申込数
2006	2/2名	1/7名	1/2名
2007	2/2名	1/4名	1/2名
2008	1/2名	1/6名	0/0名
2009	2/2名	1/3名	1/1名
2010	2/2名	1/5名	1/1名
2011	1/2名	1/4名*1	1/1名
2012	1/3名	1/7名	0/0名
2013	2/3名*2	2/3名*3	0/0名
2014	3/4名	2/2名	1/1名
2015	2/4名	2/2名	0/0名
2016	2/4名	1/1名	1/2名
2017	4/4名	3/3名*4	1/1名
2018	2/4名	1/1名	1/3名
2019*5	2/3名	1/1名	1/2名
2020	0/3名	0/0名	0/1名
2021	1/3名	0/0名	1/1名

*1 2011年度は台湾の合格者辞退により、採用枠2名に対して1名の採用となった。
*2 2013年度は韓国、中国学友会推薦0名により、採用枠3名に対して台湾学友会推薦の2名が採用となった。
*3 2013年度から台湾学友会の活動状況における実績を鑑み、台湾の採用枠を2名とした。
*4 2017年度は台湾学友会から特例申請があり、1名を追加採用することを承認した。
*5 2012年度から設けていた中国学友会への枠は、これまで応募が無かったため2019年度で廃止した。

④海外応募者対象奨学金

(2012学年度から７年間試行、そのうち2017、2018学年度は『促進期間』、2019学年度から本制度化)

2020年10月から募集を開始し、応募期限を2020年12月15日として海外に在住する応募者から、直接応募を受け付けました。応募の受付方法は、今回から従来のメール受付からWEB申込受付システムに変更となりました。この制度の魅力である多彩な国からの応募が地区へも浸透し、地域の大学と連携して採用を進める地区もあります。

年度	採用枠	申込数	合格者数
2012	1地区1名まで	89名(48校/24地区)	4名(4地区)
2013*	1地区1名まで	225名(61校/14地区)	4名(4地区)
2014	1地区3名まで	94名(37校/13地区)	9名(9地区)
2015*	1地区3名まで	32名(14校/7地区)	4名(4地区)
2016	1地区3名まで	53名(24校/12地区)	6名(5地区)
2017	1地区1名まで 別枠採用可能 それ以上は枠内	65名(38校/23地区**)	16名(14地区) 枠内採用2名含む
2018	1地区1名まで 別枠採用可能 それ以上は枠内	78名(42校/27地区**)	14名(12地区) 枠内採用2名含む
2019	1地区1名まで 別枠採用可能 それ以上は枠内	84名(44校/23地区**)	10名(10地区) 枠内採用0名
2020	1地区1名まで 別枠採用可能 それ以上は枠内	101名(49校/29地区)	13名(13地区) 枠内採用0名
2021	1地区1名まで 別枠採用可能 それ以上は枠内	65名(35校/21地区)	10名(10地区) 枠内採用0名

*研究生から正規の課程に合格し、延長した者は除く。

**2580地区は採用しない方針のため2750地区で受付・選考し採用した。よって2580地区は受付地区としてカウントしていない。

【合格者内訳】

年度	地区	国・地域	学校名称(課程)	
2012	2590/2650/2680/2820	台湾/中国/ベトナム	慶應義塾大学(修士) 京都大学(修士)	神戸大学(博士) 筑波大学(修士研究生)
2013*	2650/2660/2750/2820	中国/韓国/トルコ/ベトナム	立命館大学(修士) 大阪大学(修士)	茨城大学(修士研究生) 東京大学(修士)
2014	2520/2550/2590/2610/2750/2780/2800/2820/2830	タイ/アルメニア/フランス/ウクライナ/イラン/アフガニスタン/モンゴル/ベトナム	東北大学(修士) 宇都宮大学(修士) 慶應義塾大学(博士) 金沢大学(博士研究生) 東京外国語大学(修士)	東海大学(修士) 山形大学(学部) 茨城大学(修士研究生) 青森中央学院大学(修士)
2015*	2520/2660/2750/2760	モンゴル/タイ/韓国	東北薬科大学(博士) 大阪大学(博士)	東京大学(修士) 名古屋大学(修士)
2016	2660/2750/2760/2790/2800	台湾/タイ/アメリカ合衆国/ベトナム/モンゴル	大阪大学(博士)2名 東京大学(修士) 名古屋大学(修士)	千葉大学(修士) 山形大学(学部)
2017	2510/2520/2560/2610/2640/2660/2680/2690/2700/2720/2750/2760/2780/2800	台湾/ベトナム/モンゴル/タイ/カンボジア/マレーシア/カナダ/インドネシア/ネパール/アルバニア	北海道大学(学部) 岩手大学(修士) 事業創造大学院大学(修士) 富山大学(修士) 大阪府立大学(修士) 大阪大学(医博、修士)2名 神戸大学(学部) 岡山大学(博士)	九州大学(博士) 熊本大学(修士) 東京工業大学(修士) 日本女子大学(修士) 名古屋大学(修士) 神奈川工科大学(博士) 山形大学(学部)
2018	2500/2510/2560/2590/2600/2610/2660/2670/2680/2750/2760/2780	台湾/中国/韓国/インドネシア/パキスタン/カザフスタン/モンゴル/アフガニスタン	帯広畜産大学(修士) 北海道大学(修士) 事業創造大学院大学(修士) 昭和音楽大学(学部3年編入) 信州大学(博士) 金沢大学(修士) 立命館大学(博士)	高知大学(修士) 愛媛大学(修士) 神戸大学(博士) 東京大学(修士) 名古屋大学(修士)2名 東海大学(修士)
2019	2500/2510/2520/2530/2560/2590/2720/2750/2760/2800	インド/モンゴル/韓国/タイ/インドネシア/ナイジェリア/スリランカ/ジョージア	帯広畜産大学(博士) 北海道大学(博士) 東北大学(修士) 会津大学(博士) 新潟医療福祉大学(修士)	東京工業大学(博士) 立命館アジア太平洋大学(修士) 武蔵野美術大学(学部) 名古屋大学(修士) 山形大学(学部)
2020	2500/2510/2530/2560/2600/2610/2660/2680/2690/2720/2740/2760/2780/2800	ベトナム/モンゴル/アフガニスタン/エジプト/カンボジア/タイ/ドミニカ共和国/ナイジェリア/ネパール/パキスタン	帯広畜産大学(博士) 札幌国際大学(学部) 会津大学(博士) 事業創造大学院大学(修士) 松本大学(修士) 富山大学(博士) 神戸大学(学部3年編入)	岡山大学(学部) 熊本大学(修士) 佐賀大学(博士) 名古屋大学(修士) 東海大学(修士) 山形大学(学部)
2021	2530/2560/2670/2690/2730/2750/2760/2770/2790/2820	スーダン/ハンガリー/ミャンマー/ベトナム/台湾/エジプト/モンゴル/インドネシア	福島大学(博士) 事業創造大学院大学(修士) 愛媛大学(修士) 岡山大学(学部) 鹿屋体育大学(博士)	創価大学(学部) 名古屋大学(修士) 日本薬科大学(博士) 東京大学(博士) 筑波大学(修士)

*研究生から正規の課程に合格し、延長した者は除く。

【海外応募者対象奨学金：応募・合格のあった地区一覧】

地区	学校名	合格数	不合格数	申込数	地区	学校名	合格数	不合格数	申込数
2520	岩手大学		1	1	2690	岡山大学	1	6	7
	東北大学		1	1	2700	九州大学		3	3
2530	会津大学		1	1	2710	広島大学		1	1
	福島大学	1		1		山口大学		1	1
2560	事業創造大学院大学	1		1	2720	立命館アジア太平洋大学		1	1
2570	東京国際大学		1	1	2730	宮崎大学		1	1
2580	上智大学		1	1		鹿屋体育大学	1		1
	早稲田大学		2	2	2740	佐賀大学		1	1
	東京大学		3	3	2750	創価大学	1		1
	東京理科大学		1	1		東京大学		1	1
	明治大学		1	1		文化学園大学		1	1
2600	信州大学		1	1	2760	名古屋大学	1	14	15
2630	岐阜大学		1	1	2770	埼玉大学		1	1
2650	京都先端科学大学		1	1		日本薬科大学	1		1
	京都大学		2	2	2790	東京大学	1	1	2
	滋賀大学		1	1	2800	山形大学		1	1
	同志社大学		1	1	2820	筑波大学	1	3	4
2670	愛媛大学	1		1	総計		10	55	65

(2) 2021学年度採用奨学生数

①2021学年度奨学生採用国別内訳

2021学年度奨学生採用数は、910名でした。

奨学生採用数における国籍割合は、中国43.1%（前年度38.6%←前々年度39.1%）、ベトナム13.1%（13.7%←15.6%）、韓国9.4%（8.3%←9.2%）、台湾4.0%（3.5%←3.3%）、その他30.4%（35.9%←32.8%）となりました。一カ国に偏らず、より多くの国・地域の申込者に門戸を開くため、各地区選考委員会では国籍割合に配慮して選考しています。また、申込段階で様々な国籍の学生からの申込があるように、「地区から指定校に対する選考の目安」として29地区が、「国籍への配慮」を指定校に伝えています。

【国別・奨学金別一覧】

	学部課程	修士課程	博士課程	地区奨励	クラブ支援	海外応募者	海外学友会推薦	総計	ロータリー米山記念奨学会	在日留学生（2020年5月現在）
中国	102	145	142	1	2	0	0	392	43.1%	43.6%
ベトナム	94	13	6	2	0	4	0	119	13.1%	22.3%
韓国	51	11	21	2	0	0	1	86	9.4%	5.6%
台湾	14	11	8	0	0	3	0	36	4.0%	2.5%
その他	111	77	62	6	2	19	0	277	30.4%	26.0%
総計	372	257	239	11	4	26	1	910	100.0%	100.0%

②地区別奨学生（学部･修士･博士課程、地区奨励、クラブ支援）採用数の算出基準

2021学年度奨学生（学部･修士･博士課程、地区奨励、クラブ支援）の採用枠は855名。以下の通り地区別に振り分けをしました。

1）割当数のうち2016年９月に譲渡された株式の配当金見込額分の奨学生数42を除く813名枠を以下ａ～ｄの比率で34地区に割り当てました。

ａ．１割（81名）を地区別有資格者数比率で34地区に割り当てる

ｂ．３割（244名）を2018年度個人平均寄付額比率で34地区に割り当てる

ｃ．５割（407名）を2018年度寄付総額比率で34地区に割り当てる

ｄ．１割（81名）を特別寄付者割合で34地区に割り当てる

2）算出過程で出る上記ａ～ｄの合計の小数点以下を切り捨てて余剰を出し、奨学生ひとりあたりの獲得寄付額（2018年度寄付総額÷割当数枠）の地区格差を是正するために再配分し、残った余剰分を、個人平均寄付額前年度比の増加率上位地区から１名ずつ配分しました。

3）更に配当金充当分42名を34地区に１名ずつ、第2760地区に８名を振り分けました。

地区別有資格者数は、全国2020年４月現在の大学および高等専門学校を対象に2020年５月に行った学校アンケート結果に基づいています。対象校は、新設大学10（前年度10）校を含む34地区に所在する大学・高等専門学校全961キャンパスです。

有資格者が多い地区に対して地区内留学生の有資格者比率に比例して奨学生が割り当てられるようにするため、全体の１割が地区別有資格者比率によって割り当てられています。

2. 全国学校情報の収集と地区への提供（留学生担当者･在籍数･特長等）

毎年５月に全国の大学・高等専門学校に対し、WEB回答方式のアンケート調査を実施しています。各校の在籍留学生数（キャンパス別、国・地域別、学年別）、学校担当者連絡先、留学生受け入れ体制の特長について、回答を得ました。

学校アンケート：

1. 目　的 ① 学校・キャンパス別在籍留学生数の把握
   ② 地区別奨学生割当数算出のための地区別有資格数の把握
2. 内　容 ① 学校・キャンパス別担当者名と連絡先
   ② 国・地域別、課程・学年別在籍者数
   ③ 学校の留学生受け入れ体制のPR（特長、連絡事項を含む）
3. 実施時期　2021年４月19日～５月19日
4. 対 象 者　全国の大学・高等専門学校
5. 調査方法　記名方式、専用WEBサイトでの回答

アンケート結果から、「2022学年度地区別奨学生割当数」算出のための地区別有資格者数を把握し、これを要素の一つとして新規採用数を算出しました。また、地区の指定校選定のための資料として、下記を各地区の地区選考委員会へ配布しました。

1. 募集要項概要
2. 2022学年度地区別奨学生割当数
3. 指定校選定ガイドライン
4. 学校連絡先リスト、学校の留学生受入れ体制のPR、留学生有資格者数
5. 指定校採用実績、募集・申込・合格数推移

資料は、地区における留学生有資格者数や留学生の出身国・地域の把握とともに、大学の留学生受け入れに対する熱意を知る資料となっています。地区単位では、指定校選定にあたり、学校訪問や学校担当者対象の奨学生募集説明会などが実施されました。地区内の大学との連絡を維持することは、奨学事業の目的や地区選考委員会として推薦してほしい具体的な奨学生像を継続的に学校側に伝えることにつながっています。

Ⅱ. 奨学生と学友（元奨学生）

1. 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う奨学生対応

新型コロナウイルス感染症の終息が見えない状況の中、４月15日、クラブ例会が休会となり、奨学生に例会で奨学金を支給できない場合の対応について、世話クラブにメールで案内をしました。奨学生の銀行口座への振り込みや、会員から個別に渡していただくなど、柔軟な対応をお願いしています。

一度も入国できていない海外応募者対象奨学生については、昨年度に引き続き、既存の「出国」制度（「出国届」のWeb登録により、最大90日までの出国を認める）を適用し、更に、90日を超える場合は、奨学金を半額支給する特別措置を取ることになりました。ただし、日本の大学に在籍し、オンライン授業を受講していることが条件となり、奨学金は、原則、日本に入

国後、例会に出席してから支給することになっています。

すでに入国している奨学生の出国については、出国に関する規程のとおり、最大90日以内を限度とすることを世話クラブと奨学生に連絡しました。

海外学友会推薦奨学生については、期限である６月末までの来日が困難であることから、期限を延長し、奨学期間内に来日可能であれば、そこから１年間の受け入れとすることになりました。

以上の暫定措置について、該当する地区や世話クラブに連絡し、引き続き国内外の感染状況を注視しながら、対応を検討していくこととしました。

2. ホームカミング制度

本制度は、海外で活躍する学友に里帰りしてもらい、旧交を温めるとともに、スピーチを通じて学友の感謝の心と米山奨学事業の意義を伝えることを目的として2008年に設立されました。2009年度から他地区出身学友（海外招へいの場合に限る）や国内在住学友へと対象を広げ、2013年度からは１地区につき年間２名まで招へい可能とするなど、適宜制度を改編しながら継続推進しています。

2020-21年度は１地区で１件が実施されました。もう１件、申請がありましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、中止となりました。なお、現在までに全32地区で延べ202件が実施されています。

年度	実施地区数	実施件数
2008	13+奨学会広報企画２	15
2009	19	19
2010	14	14
2011	12	12
2012	12	12
2013	13	18
2014	18	21
2015	13	17
2016	17	21
2017	19	25
2018	12	16
2019	8	11
2020	1	1

【2020年度ホームカミング制度実施１件】

実施地区	学友氏名	国籍	世話クラブ	期間	プロフィール	主な参加行事
2540	陳　良慶	台湾	秋田東	2020/07/03 ～ 2020/07/05	国際教養大学専門職大学院卒業後、東芝入社。現在、東芝インフラシステムズ(株)勤務。	基盤向上セミナースピーチ、ロータリアン・学友・奨学生との懇親会参加

3. 学友のフォローアップ

(1) 災害・感染症流行時における学友・奨学生への対応

事務局では災害や感染症など特別なケースが生じた場合、注意を促し、奨学生や関係者に安否の確認や被害状況の確認などをしています。

下記のとおり、各発生事項に対して該当する学友および奨学生へ注意喚起メールやお見舞いメールを配信しています。配信したメールに対して、安否や被害状況を返信してくる学友・奨学生もおり、一方向の注意喚起に留まらない双方向の関係維持のために機能しています。

発生事項	対　象
① 2009年新型インフルエンザ(5月・9月・11月発信)	790名(9月までの終了者36名除く)
② スマトラ島沖地震(2009年9月30日)	142名(インドネシア出身学友・奨学生)
③ チリ大地震(2010年2月27日)	4名(チリ出身学友・奨学生)
④ 青海省地震(2010年4月14日)	12名(中国青海省出身学友・奨学生)
⑤ 東日本大震災(2011年3月11日発信)	619名(2010年度現役。継続除く)
⑥ 東日本大震災(2011年3月14日発信)	2,566名(2005-09年度終了の学友)
⑦ 東日本大震災(2011年3月18日発信)	116名(2520/2530/2820地区奨学生および4月採用予定者)
⑧ タイ洪水(2011年11月4日発信)	99名(タイ在住学友)
⑨ 東北地方地震(2012年12月7日発信)	293名(2520/2530地区学友・奨学生)
⑩ ネパール地震(2015年4月27日発信)	158名(ネパール出身学友・奨学生)
⑪ 熊本地震(2016年4月15,16日発信)	80名(熊本・大分在住学友・奨学生)
⑫ イタリア地震(2016年8月26日発信)	10名(イタリア在住学友)
⑬ ミャンマー地震(2016年8月26日発信)	106名(ミャンマー在住学友)
⑭ 九州北部豪雨(2017年7月6日発信)	186名(福岡・大分に在住/勤務の学友・奨学生)
⑮ 四川省および新疆ウイグル自治区地震(2017年8月9日発信)	4,501名(中国出身または中国在住の学友・奨学生)
⑯ メキシコ中部地震(2017年9月20日発信)	20名(メキシコ出身またはメキシコ在住の学友・奨学生)
⑰ 2017年イラン・イラク地震(2017年11月15日発信)	41名(イラン、イラク出身または両国在住の学友・奨学生)
⑱ 2018年台湾・花蓮地震(2018年2月7日発信)	1,305名(台湾出身または台湾在住/勤務の学友・奨学生)
⑲ 島根西部地震(2018年4月9日発信)	25名(島根県在住/勤務の学友・奨学生)
⑳ 大阪北部地震(2018年6月18日発信)	444名(2660・2650現役奨学生、大阪・京都在住/勤務の学友)
㉑ 西日本豪雨(2018年7月9日発信)	138名(広島・岡山在住/勤務の奨学生・学友)
㉒ 台風21号(2018年9月5日発信)	634名(2660・2650・2680在住/勤務の奨学生・学友)
㉓ 北海道胆振東部地震(2018年9月6日発信)	124名(北海道在住/勤務の奨学生・学友)
㉔ インドネシア津波(2018年12月26日発信)	209名(インドネシア出身の奨学生・学友)
㉕ 新型コロナウイルス(2020年1月29日～複数回発信)	2019、2020学年度奨学生

※①2009年春頃から2010年3月頃にかけて、2009年新型インフルエンザ（2009H1N1）世界的流行
※②インドネシア西部スマトラ島沖のインド洋でマグニチュード7.6の地震発生
※③チリでマグニチュード8.8の地震発生
※④中国青海省でマグニチュード7.1の地震発生
※⑤～⑦東日本大震災　東北地方太平洋沖でマグニチュード9.0の地震発生
※⑧タイで7月～12月に洪水が発生、大規模な被害が続いた
※⑨東北地方・三陸沖でマグニチュード7.0の地震発生
※⑩ネパールでマグニチュード7.8の地震発生
※⑪熊本県熊本地方を震央とするマグニチュード7.3の地震発生
※⑫、⑬ 8月24日にイタリアでマグニチュード6.2の地震が発生、数時間後にミャンマーでマグニチュード6.8の地震が発生
※⑭7月5～6日にかけて、福岡県と大分県を中心とする九州北部で集中豪雨発生
※⑮8月8日に中国四川省でM7.0、9日新疆ウイグル自治区でM6.6の地震発生
※⑯9月19日にメキシコでM7.1の地震発生
※⑰11月12日にイラン・イラク国境付近でM7.3の地震発生
※⑱2月6日に花蓮県近海を震源に地震発生、花蓮県などで最大震度7級を計測
※⑲4月9日に島根県西部でM6.1の地震発生、最大震度5強を計測
※⑳6月18日に大阪府北部で地震発生、最大震度6弱を計測
※㉑6月28日から7月8日にかけての記録的豪雨。主に西日本で大きな被害
※㉒9月4日に台風21号が西日本を縦断、近畿地方を中心に大きな被害
※㉓9月6日に北海道胆振地方中東部で地震発生、最大震度7を計測
※㉔12月22日、インドネシア西部スンダ海峡で大津波発生
※㉕2019年11月に新型コロナウイルスが検出され、その後世界的に大流行

(2) 学友・奨学生に対する定期的なメール発信

メールを活用し、学友をはじめ奨学生あてに誕生祝いメッセージを発信しました。定期的なメールの発信は、学友が米山奨学生として、あるいは世話クラブの一員としての帰属意識を高める結果となり、連絡先の変更や母国での活躍振りなどが知らされました。この学友からの返信は、『ハイライトよねやま』や『ロータリーの友』の米山奨学会のページ「よねやまだより」で活躍顕著な学友を紹介するための素材としても活用されています。

また、奨学生の提出物に関する通知や、留学生対象のイベントの案内など、奨学生・学友に有益と思われる情報を必要に応じてメール配信しました。

4. 学友会活動の支援

(1) 奨学生数と学友会組織

2021学年度で奨学生の累計は、22,267名となりました。日本に在住している学友は、約3,700名です。現在、日本国内に33の学友会（34ロータリー地区）、海外では台湾、韓国、中国、タイ、ネパール、モンゴル、スリランカ、マレーシア、ミャンマーの９団体、計42団体の米山学友会が組織されています。各学友会では、奨学生終了後もロータリー会員・家族や学友同士の交流が続けられています。ロータリーの国際奉仕活動の目的に沿って展開されている主な活動は、総会、親睦会、学術セミナー、研修旅行および地区米山奨学委員会と連携した奉仕活動、奨学生の面接、オリエンテーション、地区大会、歓送会などへの協力です。

(2) インターネットを通した学友会活動

各学友会では、メーリングリスト、ホームページ、フェイスブックが作成され、学友間でのメール交換、学友会活動の紹介をするほか、ロータリアン、ガバナー事務所との連絡や情報交換も活発に行われるようになってきました。

(3) 学友会への情報提供

学友のデータ（氏名・奨学期間・連絡先等）を地区米山記念奨学委員長、学友会会長やガバナー事務所などに対して開示しています。学友会への情報提供は、学友会と「個人情報の保護・管理に関する秘密保持契約書」を取り交わすことにより行っています。連絡網をデータ化することにより各学友会で必要に応じた会員への情報発信ができます。個人情報の保護を遵守するため、その扱いについては万全を期しています。

(4) ロータリー米山記念奨学会学友会セミナー

持続的な学友会組織運営と全国の情報共有等を検討協議することを目的に、国内33学友会の代表者が参集する「学友会セミナー」を2021年６月26日（土）に開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止・延期を経て、初のZOOM形式での開催となりました。31の国内学友会と８つの海外学友会（スリランカ、タイ、ネパール、マレーシア、モンゴル、韓国、台湾、中国）の会長や副会長が参加しました。国内の第2620（山梨・静岡）地区、第2660（大阪北部）地区学友会、海外学友会からは、韓国とマレーシアの活動工夫例の事例発表を行いました。その後、グループディスカッション、質疑応答を行いました。事例発表では、海外学友会独自の奨学金、地区やロータリークラブと連携した奉仕活動、奨学生に対するメンター制度、複数県/地域を持つ地区の特性を生かした地域ごとの活動などの工夫例が紹介されました。グループディスカッションでは、コロナ禍で自粛状態にある学友会活動に関する悩み、オンラインやアウトドアを活用した工夫例などが共有されました。

Ⅲ. 世話クラブとカウンセラー活動

1. 新規奨学生とカウンセラーのためのオリエンテーション

４月中旬から５月にかけて新規奨学生およびそのカウンセラー対象のオリエンテーションを各地区で開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、感染予防対策を取ったうえ集合形式での実施のほか、オンラインや奨学生世話クラブでの個別オリエンテーションなど、工夫しながら様々な実施形態で行われました。奨学生とカウンセラーに対して、奨学生の心得・守るべきこと、奨学金額や奨学期間などが明記された「確約書」および「個人情報開示に関する同意書」の内容を説明し、奨学生が署名をしました。

特に、奨学事業は“どんな奨学生を採用し、奨学生がどのように成長したか”によって評価されることを強調して伝えています。経済的支援だけにとどまらない世話クラブ・カウンセラー制度の素晴らしさを体験することによって、奨学期間終了後も交流が続くよう、絆を深めることの必要性を奨学生にもカウンセラーにも理解して頂きました。オリエンテーション実施者に対してはプレゼンテーション資料を提供しました。

2. カウンセラー研修会

カウンセラー研修会は実施19年目を迎え、2020年度は計12地区（補助費申請のあった地区のみ）で開催されました。講義形式の研修会では、グループディスカッションや代表者による事例報告、講師による危機管理や寄付増進に関する説明などが行われました。また、同日に、奨学生卓話研修や奨学生とカウンセラーの合同研修を行う地区が増えています。

問題や課題への取り組みには、カウンセラーアンケート調査結果やカウンセラーハンドブック掲載の「事例研究」が活用されています。



Ⅳ. 広報活動

1. 当会ロゴマークの変更とガイドラインの策定

近年、国際ロータリーではBrand Fidelity（忠実）Projectのもと、最新のマニュアルに沿ったロゴマークの使用が厳格に推進されており、全ての地区を対象に正しいロゴ使うよう指導が進行しています。これにより、米山記念奨学会でも、これまで国際ロータリーの承認のもと使用してきたロゴマークを新たなガイドラインに従って変更し、国際ロータリーと当会常務理事会の承認を得ました。また、同ロゴマークおよびハートを手で支える事業のシンボルマークの取り扱いを定めた使用ガイドラインを新たに策定しました。

2. 新・米山バッジの製作

米山記念奨学事業への支援と結束を強めてもらう目的で2012年３月に作ったピンバッジを９年ぶりにリニューアルしました。従来のバッジよりもサイズを小さくし、当事業の特色である温かみを感じさせるシンプルなデザインとしました。当初、2021年６月に開催される台北国際大会の当会ブースにて配布予定でしたが、コロナ禍も影響して当初より完成が遅れ、本格的な配布は2021-22年度となります。

3. 新・ロゴ旗の製作

地区大会やクラブ例会の壇上に掲揚いただける米山記念奨学会ロゴ旗を新しく製作しました。2021-22年度より希望者へ貸し出しを開始します。

4. 財団設立50周年記念誌の頒布

財団設立50周年記念事業として制作した『ロータリー米山記念奨学会50年のあゆみ』（50周年記念誌）を昨年度に引き続き希望者に頒布しました。50周年記念誌については2021年６月末をもって有料頒布を終了し、今後、残部を研修資料として活用します。

5. よねやま親善大使の活動推進とサポート

第４代よねやま親善大使３人へオンラインオリエンテーションを行い、2020年７月より活動を開始しました。コロナ禍で活動の場がかなり制限されたものの、クラブ卓話や地区カウンセラー研修会、米山セミナーでのスピーチと交流を通じて、当事業のPRに協力してもらいました。各地区・クラブからの派遣要請の窓口を当会事務局が務めて、円滑で効果的な招へいが実現できるようサポートしました。

6. デジタルサイネージでの事業紹介（公益財団法人米山梅吉記念館内）

公益財団法人米山梅吉記念館（静岡県駿東郡）に2019年からデジタルサイネージを設置し、同館利用者へ向けて当事業を紹介する映像を上映しています。

7. ロータリーの友・よねやまだより

国際ロータリーの地域雑誌である「ロータリーの友」に、ロータリーの友事務所編集部の協力を得て、ロータリー米山記念奨学事業のページ“よねやまだより”を毎号掲載しました。2020-21年度は、理事長挨拶や奨学事業の基礎知識シリーズのほか、10月号は米山月間特集、11月号以降は新シリーズ「米山から世界の町へ」の連載を開始。海外の学友が自分の住む町や近況を紹介し、日本のロータリアンにとって近い将来の旅や奉仕へのヒントとなることを期して、記事を掲載しました。

8. DVD・記録映像作品の活用

米山記念奨学事業の認知・理解を広めるために、近年では、ロータリークラブの例会で利用しやすく、かつ、直感的に理解ができるDVDが広く活用されています。2020-21年度は、台北で開催される国際ロータリー年次大会において撮影を行い、新たな記録映像作品を制作する予定でしたが、同大会がバーチャル開催となったことに伴い、当初の計画は中止となりました。

このため、従来からのDVDや動画を活用し、希望者へ配布したほか、全国のクラブを対象としてZoomで開催された「クラブ活性化セミナー」用動画として、米山学友がクラブのグローバル補助金・地区補助金事業へ協力した事例を取り上げた映像を制作し、上映していただきました。

第４代よねやま親善大使には、活躍の場を広げるため、自己紹介動画を各自に撮影してもらい、それらを当会のYouTubeチャンネルにアップロードし、公開しました。

また、海外米山学友会の総会や、東京米山友愛ロータリークラブ創立10周年記念例会に合わせて、齋藤直美理事長、柚木裕子事務局長のメッセージ動画を撮影し、それぞれ提供しました。

◇事業紹介用DVD◇

・「世界へ届け 米山の懸け橋～ロータリー米山記念奨学会 財団設立50周年記念～」
（2017年制作・事業のあゆみ、概要、学友の活躍・15分　※英語版あり）
・「世界に平和の種をまく」（2016年制作・事業概要・３分）
・「ひろがれ！人づくりの輪」（2012年制作・事業概説と、奨学生とロータリアンとの交流、学友や学友会の活動を紹介・15分/５分）

◇学友インタビュー・学友紹介◇

・【第４代よねやま親善大使】３人の自己紹介（2021年制作・１人あたり10－12分）
・【学友マイ・ストーリー２】人々に幸せを届けたい―金玄勲（2016年制作・14分）

◇活動報告◇

・モンゴル米山学友会制作「絆 in モンゴル」オープニングビデオ
（2019年制作・19分/７分30秒）
・世界に羽ばたくYONEYAMA in SEOUL（2016年制作・16分）

9. ロータリー米山記念奨学事業・豆辞典

米山月間用資料として毎年作成している、奨学事業の概要をコンパクトにまとめた小冊子を発行し、米山月間用資料として、クラブを通じて全会員に配布しました。また、PETS、地区研修・協議会をはじめ、地区における米山記念奨学事業の研修会等の資料として、必要数を送付しました。

〔制作数：107,000部〕

10. クラブ米山記念奨学委員長の手引き

クラブ米山記念奨学委員長の事業理解推進のため、基礎知識集としての「クラブ米山記念奨学委員長の手引き」（米山寄付金マニュアルとの合冊）を発行し、米山月間用資料として、全ロータリークラブに１部ずつ送付しました。また、次年度に向けた地区研修・協議会での配布資料として増刷し、全地区に必要数分を送付しました。　〔制作数：3,300部＋増刷3,000部〕

11. 米山学友の群像

巣立った奨学生たちが、現在どのような活躍をしているのか、ロータリーで体験したことが、その後の人生にどのような影響を与えたのか、奨学事業の成果を知らせる広報資料として、2005年から２～３年おきに『米山学友の群像』を発行しています。オールカラーで見やすい誌面づくりを心がけ、一般の人に向けたロータリーについての説明も掲載して、ロータリー以外への広報にも使っていただける内容にしています。

2017年３月に発行した第５号は、2021学年度の新規合格者と指導教員へ配布したほか、地区研修・協議会資料として全ロータリー地区に送付しました。また、2020年６月に発行した「学友会特集号」は米山月間用資料として関係者へ送付したほか、希望するロータリークラブや個人へ配布しました。　〔制作数：8,000部〕

12. 寄付金増進

寄付金マニュアル：寄付金納入の手続きや税制上の優遇措置、表彰制度など寄付金について必要な基本情報や個人情報保護の対象となる寄付金実績の取り扱いなどを詳述したマニュアルを作成し、全ロータリークラブに配布しました。
〔制作数：2,400部〕

13. 事業報告書（Annual Report）

Annual Report：2019年度事業報告書として全ロータリークラブおよび留学生奨学団体等関係団体に配布しました。事業報告および収支決算報告とあわせて2020年度の事業計画・予算や役員・委員名簿を記載しました。なお、業務の見直しから、統計・資料編は、製作・印刷版の発行を取りやめ、希望があれば必要なデータを提供する形で対応することとしました。　〔制作数：3,000部〕

14. 米山奨学事業ハンドブック

指定校選定による奨学生募集、面接選考から合否、世話クラブ・カウンセラー依頼と選定、オリエンテーション実施など奨学生の受入れと奨学期間中のケアおよび歓送会に至るまでの手順を説明した実務マニュアルとして、地区米山記念奨学委員会を中心に、希望数を配布しました。
〔制作数：900部〕

15. 面接官の手引き

34地区選考委員会および面接官に対して、全地区統一の公正で透明かつ奨学事業の使命に基づいた一定の選考基準で奨学生の選考を推進すること、面接の基本マナーと質問タブーを認識していただくことを目的に作成し、各地区の面接官オリエンテーションなどで活用されました。
〔制作数：800部〕

16. カウンセラー・ハンドブック

世話クラブ、カウンセラーの役割、奨学生の心得と各種手続きおよびカウンセリング事例などについて記載した、カウンセラーおよび世話クラブ関係者必携の冊子です。冊子巻末に、“ハラスメント相談窓口のご案内”と“奨学生ハンドブック”が合冊されています。

ロータリアンとしてハラスメントへの認識を深め、ハラスメントの無い奨学事業推進を呼びかけました。〔制作数：3,700部〕

17. 奨学生ハンドブック

奨学生として知っておくべき“ロータリーの歴史と目的”や“奨学事業の目的”、奨学生としての義務と責任を記載しました。また、奨学生が行う各種手続きを説明し、カウンセラーをはじめとしたロータリアンとの交流で留意する点をQ&A形式で分かり易くまとめました。〔制作数：1,400部〕

18. 英文リーフレット

海外ロータリアンへの広報を目的に、2016年４月に改訂版を発行した英語版の事業紹介リーフレットを希望者に配布しました。

19. 事業紹介リーフレット・よねやまガイド

新入会員や一般向けの日本語版・事業紹介リーフレット「よねやまガイド」の改訂版（2017年６月発行）を希望のクラブ・個人に配布しました。

20. 事業紹介バナー

地区大会や各地区の米山関連セミナー、オリエンテーションや歓送会など米山関連行事の会場に展示するための自立式のバナースタンドを8,300円（制作費の約半額を広報費で補てんした金額）で頒布しました。

21. ホームページと情報公開　http://www.rotary-yoneyama.or.jp/

米山記念奨学会では、ホームページを一般広報の柱として位置づけ、コンテンツの拡充につとめています。当事業の紹介や奨学生募集情報のほか、これまでに制作したDVD作品はすべて動画で配信し、学友・奨学生の活躍を広く一般に広報しています。また、奨学事業に関わる情報（定款、評議員・理事名簿、財務諸表、事業計画・報告、予算）もホームページで公開し、透明性の確保に努めています。

ロータリアン向けには、各ロータリークラブの寄付金納入実績を掲載して、寄付金の現状を提供し、ニュースレター「ハイライトよねやま」、各種広報資料をPDF等でダウンロードできるよう掲載しています。ホームページは日本語のほか、英語のページを設け、日本留学の希望者へ奨学金情報を提供しています。

また、Facebook（フェイスブック）に設けた米山の公式ページにおいて、各地区の米山関連イベントや学友情報、留学生に役立つニュースなど迅速な情報提供に努めました。米山のFacebook公式ページのフォロワー数は約5,700人となっており、記事へのコメントやメッセージ投稿を通じて、ロータリアンや学友・奨学生との双方向のコミュニケーションを実現しています。

22. 電子メールによる情報発信・提供：ハイライトよねやま

Eメールとホームページを通じ、ロータリアン向けの月刊ニュースレター「ハイライトよねやま」を発行し、奨学事業の最新ニュース、寄付金状況速報、学友情報などを配信しました。

23. ポスター

地区大会のブース展示などで米山記念奨学事業をPRできる大判ポスター（A１サイズ、2019年６月制作）を希望のクラブ・個人に配布しました。

24. よねやまスピーチ特撰集

米山学友の特にすぐれた講演録「よねやまスピーチ特撰集①」、および、50周年記念式典のフォーラム記録および記念講話を収録した「スピーチ特撰集②」を希望のクラブや個人に配布しました。

V. 寄付の推進

1. 寄付金の実績（2020/7/1～2021/6/30）

	寄付金額	本年度予算達成率
普通寄付金	419百万円	102.2%
特別寄付金	918百万円	99.7%
合計	1,337百万円	100.5%

2. 寄付：クラブ・個人・法人の表彰

(1) 達成クラブ（普通寄付金および特別寄付金合計額）　2021/6/30現在

達成金額	達成クラブ数		達成クラブ名	備考 創立年月日
2億8千万円	1		名古屋名東ロータリークラブ	1978/ 6/20
2億5千万円	1	＊	東京ロータリークラブ	1920/10/20
2億1千万円	1		京都南ロータリークラブ	1954/ 3/11
2億円	1	＊	大阪ロータリークラブ	1922/11/17
1億8千万円	1	＊	東京南ロータリークラブ	1950/ 8/ 4
1億7千万円	2	＊	京都ロータリークラブ	1925/10/ 7
		＊	横浜ロータリークラブ	1927/ 6/ 1
1億5千万円	2		奈良ロータリークラブ	1952/ 3/27
		＊	大阪北ロータリークラブ	1952/12/16
1億4千万円	3		名古屋名南ロータリークラブ	1991/ 2/19
			大阪東ロータリークラブ	1957/ 6/ 6
		＊	大阪南ロータリークラブ	1952/12/16
1億3千万円	5		東京江北ロータリークラブ	1960/ 3/17
			京都西ロータリークラブ	1958/ 2/ 3
			横浜南ロータリークラブ	1962/ 3/30
			東京日本橋ロータリークラブ	1969/10/30
			大津ロータリークラブ	1950/12/19
1億2千万円	4		土浦ロータリークラブ	1958/ 2/14
			岡山南ロータリークラブ	1956/12/15
			東京中央ロータリークラブ	1987/ 3/27
		＊	東京西ロータリークラブ	1955/ 6/23
1億1千万円	3		大阪帝塚山ロータリークラブ	1961/ 4/ 7
			京都東ロータリークラブ	1956/ 5/21
		＊	東京銀座ロータリークラブ	1958/ 5/17
1億円	5		大和高田ロータリークラブ	1961/ 3/28
			大阪西南ロータリークラブ	1969/ 6/ 4
			京都伏見ロータリークラブ	1973/ 3/22
			岸和田ロータリークラブ	1954/ 6/ 9
		＊	水戸ロータリークラブ	1951/ 3/15

9千万円以下では

9千万円達成クラブ数：11クラブ	8千万円達成クラブ数：23クラブ
7千万円達成クラブ数：35クラブ	6千万円達成クラブ数：61クラブ
5千万円達成クラブ数：125クラブ	4千万円達成クラブ数：153クラブ
3千万円達成クラブ数：329クラブ	2千万円達成クラブ数：413クラブ
1千万円達成クラブ数：516クラブ	

注：＊：本年度達成クラブ

(2) 功労者、功労クラブ、功労法人、特別功労法人

	本年度増加数
米山功労者	6,102名
米山功労クラブ	934クラブ
米山功労法人	9社
米山特別功労法人	14社

米山功労者表彰者実数（10万円毎）

第１回：1,735名　第２回：1,073名　第３回：715名
第４回：　544名　第５回：　432名　第６回：337名
第７回：　228名　第８回：　176名　第９回：114名
第10回：　128名　第11回～第19回：453名　第20回～第29回：93名
第30回～第39回：30名　第40回～第49回：　12名　第50回以上：32名

(3) クラブ創立記念特別寄付

地区	クラブ数	寄付合計	地区	クラブ数	寄付合計	地区	クラブ数	寄付合計
2530	2	20万円	2560	1	10万円	2570	1	10万円
2580	5	85万円	2590	3	40万円	2600	4	110万円
2610	4	180万円	2620	2	20万円	2630	1	30万円
2690	1	20万円	2710	1	10万円	2720	1	10万円
2730	1	10万円	2740	2	111万円	2750	8	270万円
2760	8	230万円	2770	2	40万円	2780	3	70万円
2790	5	110万円	2820	2	20万円	2840	1	10万円
						合計	58クラブ	1,416万円

3. 寄付：地区表彰

(1) 地区大会記念寄付

地区	寄付合計	地区	寄付合計
2540	6,000円	2740	50万円
2550	20万円	2750	30万円
2570	22万円	2770	10万円
2580	50万円	2790	17.5万円
2590	30万円	2820	15万円
2600	30万円	2840	20万円
		12地区合計295.1万円	

(2) 個人平均寄付額上位６地区

順位	地区	個人平均額	順位	地区	個人平均額	順位	地区	個人平均額
1	2590	27,421円	2	2660	26,279円	3	2770	26,097円
4	2820	23,453円	5	2650	21,459円	6	2580	20,119円

(3) 個人平均寄付額の前年度比伸び率上位６地区

順位	地区	伸び率	順位	地区	伸び率	順位	地区	伸び率
1	2530	124.6%	2	2580	117.5%	3	2570	116.0%
4	2830	114.7%	5	2670	113.1%	6	2790	112.2%

Ⅵ. 会議・委員会・セミナーの開催

1. 評議員会

第十一回　定時評議員会（書面による決議の省略）		
成立年月日	成立要件	議　事
2020.9.10(木)	評議員総数33名の同意書（１名が前月逝去のため、総数33名）	議事録作成：齋藤直美理事長 a. 第十回評議員会議事録承認の件 b. 後任評議員選任の件 c. 2020年度理事・監事選任の件 d. 2019年度計算書類承認の件 e. 報告事項：職務執行の状況報告、2019年度事業報告、2020年度収支予算書一部修正、業務委託内容一部修正、個人情報の保護および管理に関する規程、専門委員会委員選任、2020年度事業計画書、理事会決議報告

第十二回　臨時評議員会（書面による決議の省略）		
成立年月日	成立要件	議　事
2021.3.22(月)	評議員総数33名の同意書	議事録作成：齋藤直美理事長 a. 後任評議員選任の件

2. 理事会

第二十六回　理事会（書面による決議の省略）		
成立年月日	成立要件	議　事
2020.8.24(月)	理事総数34名の同意書 監事総数３名の異議のないことを証する書類	議事録作成：齋藤直美理事長 a. 前回理事会議事録承認の件 b. 後任評議員候補者の件 c. 理事･監事候補者の件 d. 2019度事業報告および附属明細書承認の件 e. 2019年度計算書類承認の件 f. 2020年度収支予算書一部修正の件 g. 業務委託内容一部修正の件 h. 個人情報の保護および管理に関する規程の件 i. 専門委員選任の件 j. 定時評議員会招集の件 k. 報告事項：職務執行の状況報告

第二十七回　臨時理事会（書面による決議の省略）		
成立年月日	成立要件	議　事
2020.9.10(木)	理事総数34名の同意書 監事総数３名の異議のないことを証する書類	議事録作成：齋藤直美理事長 a. 齋藤直美を代表理事に選定し、理事長とする件 b. 山崎淳一、水野　功を副理事長とする件 c. 井原　實、相澤光春、滝澤功治、駒井英基を常務理事とする件 d. 水野　功を業務執行理事とする件

第二十八回　臨時理事会（書面による決議の省略）		
成立年月日	成立要件	議　事
2021.2.26(金)	理事総数34名の同意書 監事総数３名の異議のないことを証する書類	議事録作成：齋藤直美理事長 a. 2021学年度奨学生採用の件 b. 後任評議員候補者の件 c. 第十二回臨時評議員会決議の省略による件

第二十九回　理事会（オンライン会議）		
日時	成立要件	議　事
2021.6.3(木) 14:15～15:45 [オンライン会議]	出席：30名 列席：　3名 欠席：　4名 計　：37名	議長：齋藤直美理事長 a. 第二十六回・二十七回・二十八回理事会議事録承認の件 b. 奨学金給与規程改定の件 c. 2022学年度奨学生採用数の件 d. 2022学年度 募集要項の件 e. 2021年度 事業計画書承認の件 f. 2021年度 資産運用方針の件 g. 2021年度 収支予算書承認の件 h. 内閣府立入検査報告 i. 職務執行報告

3. 常務理事会

日時	主な議事
2020.7.31(金) 14:00～15:30 [オンライン会議]	a. 評議員後任候補者の件 b. 理事・監事候補者の件 c. 2021学年度 指定校選定の件 d. 2019年度 事業報告書および附属明細書の件 e. 2019年度 計算書類の件 f. 2020年度 収支予算書一部修正の件 g. 業務委託・覚書一部修正の件 h. 個人情報の保護および管理に関する規程の件 i. 2020年度 専門委員候補者の件 j. 理事会・定時評議員会開催の件
2020.9.8(火) [書面決議]	a. クラブ支援奨学金：10月採用申請の件 b. 第2650地区 京都桂川ロータリークラブ特例申請の件
2020.12.3(木) 13:30～16:00 [オンライン会議]	a. 第2720地区後任評議員の件 b. 米山バッジ・ロゴ旗の件 c. 個人情報の取扱いの件 d. 勘定科目取扱要領一部改定の件 e. 米山功労者表彰バッジの件 f. 就業規則および関連規程の件
2020.12.23(木) [書面決議]	a. 第2740地区奨学生の奨学金打ち切りの件 b. 海外応募者対象奨学金申込み資格に関する件
2021.2.18(木) [書面決議]	a. 2021学年度奨学生の採用 b. 90日を超える出国奨学生の特例申請 c. 来日できない海外応募者対象奨学生の対応
2021.3.22(月) 13:00～15:00 [オンライン会議併用]	a. ロゴマーク変更の件 b. マーク使用ガイドラインの件 c. シンボルマーク商標登録の件 d.「ロータリーの友」よねやまだより契約更新の件 e. 米山奨学生追加合格者の件
2021.5.10(月) 13:00～15:00 [オンライン会議]	a. 海外学友会推薦（SY-A）奨学生承認の件 b. 海外学友会推薦（SY-A）奨学生確約事項改定の件 c. 世話クラブ補助費要領改定の件 d. 2022学年度 奨学生採用の件 e. 2022学年度 募集要項の件 f. 2021年度 事業計画の件 g. 2021年度 収支予算の件 h. 理事会開催の件 i. 2021年度 外部監査人の件

4. 専門委員会

委員会	開催日	主な議事
財務委員会	2020.7.22(水) [オンライン会議・書面決議併用]	a. 2019年度 収支決算の件 b. 2020年度 収支予算書一部修正の件 c. B格債を含む債券の購入手続きについて
	2020.11.18(水) [オンライン会議]	a. 勘定科目取扱要領一部改定の件
	2021.4.21(水) [オンライン会議]	a. 2021年度資産運用方針（案）の件 b. 2021年度収支予算書（案）の件 c. 2021年度外部監査人選任の件
広報委員会	2020.11.9(月) [オンライン会議]	a. よねやま親善大使の活用の件 b. 2021年台北国際大会広報企画の件 c. 新 米山バッジの検討 d. 新 ロゴ旗の検討 e. 50周年記念誌の頒布について
	2021.3.4(木) [オンライン会議]	a. ロゴマーク変更について b. マーク使用ガイドラインの件 c. シンボルマーク商標登録の件 d. 2021年度広報計画と予算の件 e. 記念誌の今後の取り扱いについて f. 「ロータリーの友」よねやまだよりの契約更新
選考・学務委員会	2020.7.20(月) [オンライン会議]	a. 2021学年度指定校承認の件
	2020.9.3(木) [書面決議]	a. 2020学年度クラブ支援奨学金10月採用申請の件 b. 第2650地区京都桂川ロータリークラブ特例申請の件
	2020.11.11(水) [オンライン会議]	a. 出国90日を超えた奨学生の今後の出国について b. 海外応募者対象奨学生の渡航費の件 c. 学友会セミナー開催の件 d. 個人情報の件
	2020.12.21(月) [オンライン会議]	a. 第2740地区奨学生の奨学金打ち切りの件 b. 海外応募者対象奨学金申込み資格に関する件
	2021.2.15(月) [オンライン会議]	a. 2021学年度奨学生採用の件 b. 奨学生採用承認後の追加採用について c. 90日を超える出国奨学生の特例申請 d. 来日出来ない海外応募者対象奨学生の資格について e. 海外応募者対象奨学金奨学制度 募集要項一部改定の件 f. 奨学生の個人情報取り扱いについて g. 2021-22年度次期委員長セミナー予算の件 h. 2021-22年度博士号取得記念品の件 i. 2021-22年度「奨学生・学友証明書」の件 j. 2021-22年度地区米山奨学生活動費 特別補助費の件
	2021.3.18(木) [書面決議]	a. 第2520地区 辞退者による繰上げ採用の件 （海外応募者対象奨学金制度） b. 第2680地区 辞退者による繰上げ採用の件 （地区奨励奨学金制度） c. 補欠者承認の件
	2021.4.14(水) [オンライン会議]	a. 2022学年度奨学生採用数 b. 2022学年度奨学生採用内訳 c. 2022学年度地区別奨学生割当数 d. 海外学友会推薦（SYA韓国）申し込み e. 募集要項 f. 海外学友会推薦（SY-A）奨学生確約書見直し g. 奨学生・学友証明書 裏面の掲載内容について h. 出国、休学中の報告書 i. 「地区奨学生活動費・特別補助費」の案内見直し
	2021.6.15(火) [オンライン会議] ※臨時開催	a. 第2560地区新規海外応募者の奨学金支給の件 b. 入国の見通しがつかない韓国学友会推薦奨学生の件 c. 未入国の海外応募者対象奨学生（継続）の件 d. 2022学年度 海外応募者対象奨学金制度の件

5. 研修会の開催

(1) 次期米山記念奨学委員長セミナー

2021-22年度地区米山記念奨学委員長を対象にしたセミナーを開催しました。

第１回：2020年12月２日（水）

本セミナーは毎年実施していますが、オンライン会議での開催は、初めてとなりました。当日は、齋藤直美理事長の挨拶、水野功副理事長からの当事業の現況と委員長の役割についての講演、事務局からの重要事項の説明に続き、４グループに分かれて、寄付増進等をテーマに、各地区における現状の課題などが話し合われました。全体での質疑応答後、井原實常務理事の講評で閉会しました。

第２回：2021年５月24日（月）

新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、原則オンライン会議としながら、東京近郊在住の希望者若干名が来場する会場とZOOMで結ぶハイブリッド形式で行いました。「奨学生の危機管理」をテーマとし、滝澤功治常務理事（危機管理・法務担当理事）の講演に続いて、グループディスカッションを通じて理解を深めました。

(2) 地区米山記念奨学委員長対象 Web 相談会

2020年６月に開催を予定していた次期地区米山記念奨学委員長セミナーが新型コロナウイルス感染症の影響により、やむなく中止となったことから、その代替措置として９月25・28・29日の３日間にわたり、2020-21年度の地区米山記念奨学委員長を対象に、ZOOMを使ったオンラインでの相談会を開催しました。コロナのために日本へ入国できないでいる奨学生への対応や、地区への特別補助費、８月から当会で施行された「個人情報の保護及び管理に関する規程」、よねやま親善大使やホームカミング制度などについて事務局から説明したあと、質疑応答や参加している他地区との情報交換が行われました。後日、３日間の質疑応答のまとめを作成し、セミナー資料と共に参加者に提供しました。

Ⅶ. 庶務事項

1. 財団と地区との業務委託に係る覚書

前回の内閣府立入検査での指摘を受けて整備した「業務委託に関する規定・覚書」に基づき、2021学年度採用の米山奨学生について、当財団と地区、地区と世話クラブとの同覚書の締結依頼を2021年１月22日付で全34地区に送付し、当財団と地区との覚書については、２月28日までに全34地区との締結を完了しました。

2. 地区と世話クラブとの業務委託に係る覚書

地区と世話クラブとの関係は、奨学生との交流・奨学金支給等、業務の再委託の関係であることから、上記の通り、2021年１月22日付で覚書の締結を全34地区に依頼しました。地区と世話クラブとの再委託契約については、各地区において全世話クラブとの覚書の締結完了次第、原本全てを地区で保管し、その控としてPDFデータを当会宛てに送付してもらうこととし、７月15日までに全34地区からPDFデータを受領しました。今後、世話クラブ移動などが発生する際には、新しい世話クラブと覚書を締結いただくよう地区に依頼します。

3. 登　記

東京法務局港出張所に対し、次の登記を行いました。

2020年10月７日：評議員・理事・監事の変更登記

2021年４月13日：2020年８月15日に逝去された赤山武興評議員（第2720地区）の後任として、髙山泰四郎評議員を変更登記

4. 内閣府

■2019年度事業報告書等に係わる提出書類

2020年９月29日、内閣総理大臣宛に電子申請にて提出した2019年度事業報告書および計算書類について、電子申請にて提出し完了しました。

■変更登記提出

評議員逝去〔登記：2020年10月７日　内閣府：2020年10月29日申請〕

第2720地区評議員 赤山武興PG（人吉中央RC）が2020年８月15日にご逝去されました。赤山氏は、2015年９月から評議員としてご奉仕頂きました。感謝の意を表し、感謝状および弔電をお贈りしました。

評議員〔登記：2020年10月７日　内閣府：2020年10月29日申請〕

退任者の後任評議員の登記　退任評議員には感謝状を贈呈しました。

理事・監事〔登記：2020年10月７日　内閣府：2020年10月29日申請〕

理事・監事改選に伴う変更登記

退任理事・監事には感謝状を贈呈しました。

■内閣府立入検査

2020年12月22日（火）に内閣府大臣官房公益法人行政担当室所属の公益認定等委員会事務局 審査監督調査官 宮田緑氏および政策企画調査官 大橋勇人氏の２名の検査官による立入検査が行われました。

立入検査は内閣府が公益法人に対し、三年に一度、定期的に行われる検査で、前回は2016年１月16日に行われ、今回は公益財団法人移行後、二度目の検査となります。

検査終了後の口頭による講評では、特に問題はなく、奨学団体として適正な管理運営がされていると評価を受けました。その上で、以下２点についての指摘・検討の示唆がありました。必要な対応について、今後、常務理事会で検討してまいります。

＜指摘事項＞

a. 年度別の閲覧用資料の設置

b. 海外学友会との業務委託契約の検討

■2021年度事業計画書・収支予算書提出

2021年６月29日（火）、内閣総理大臣宛に2021年度事業計画書および収支予算書を電子申請にて提出し完了しました。

5. 監　査

(1) 外部監査

下記のとおり、会計および会計書類その他の手続について、永山茂行公認会計士による監査を受けました。

〔監　査　日〕

2020年７月分	･･･ 2020年８月28日	2021年１月分	･･･ 2021年２月26日
2020年８月分	･･･ 2020年９月28日	2021年２月分	･･･ 2021年３月30日
2020年９月分	･･･ 2020年10月26日	2021年３月分	･･･ 2021年４月26日
2020年10月分	･･･ 2020年11月25日	2021年４月分	･･･ 2021年５月27日
2020年11月分	･･･ 2020年12月24日	2021年５月分	･･･ 2021年６月25日
2020年12月分	･･･ 2021年１月29日	2021年６月分	･･･ 2021年７月12日

(2) 監事監査

監事は永山茂行公認会計士の監査報告をうけ、下記の日程で来所、あるいは郵送により、会計報告および業務の執行につき監査を行いました。また、業務監査を行うため、常務理事会に出席しました。

2020年７～2020年８月分 ･･･ 2021年１月26日実施

2020年９～2020年11月分 ･･･ 2021年３月22日実施

2020年12～2021年２月分 ･･･ 2021年４月22日～2021年５月10日実施

2021年３～2021年６月分 ･･･ 2021年７月13日実施

6. 賠償責任保険

国際ロータリーの「青少年交換プログラム」におけるセクシャルハラスメント訴訟を受け、リスクマネージのため、2007年12月25日に加入した賠償責任保険「人格権等侵害担保特約条項」を引き続き１年間更改しました。

期　間：2020年12月25日～2021年12月25日
保険料：1,000,000円　保険金額：１億円
被保険者：①理事・監事・評議員および職員
②国際ロータリー日本地区ガバナー
③日本国内に所在するロータリークラブ会長
④地区米山奨学委員長

7. 奨学生保険

2020学年度（2020年４月１日）から加入した奨学生に対する傷害保険を引き続き１年間更改しました。補償範囲は世話クラブの例会出席に際して適用されます。

期　間：2021年４月１日～2022年３月31日
保険料：145,750円
対象者：奨学生
内　容：・活動時間：３時間（例会準備・例会出席・終了後の後片付け等含む）
・往復途上補償あり
・対象となる特定疾病：細菌性食中毒、熱中症（日射病および熱射病等）、脱水症、低体温症

8. 紺綬褒章

紺綬褒章は公益のために私財を寄付し、その功績が顕著な個人や団体に対し、天皇陛下から授与される褒章です。当会は、2018年９月に紺綬褒章の公益団体認定を受けました。当会から初めて申請を行った国際ロータリー第2630地区（岐阜県・三重県）上野ロータリークラブの丸山統正氏が2021年５月29日付で紺綬褒章を受章されました。

丸山氏は2020年６月、長年にわたって収集してきた故平山郁夫氏の版画を売却した代金の一部を当会へご寄付いただきました。この多大なご支援により、当会から文部科学省へ紺綬褒章の授与対象として申請し、閣議決定を経て、このたび紺綬褒章授与が決定しました。

７月６日の同クラブ例会にて褒章伝達式が行われ、出席した当会の水野功副理事長から丸山氏へ褒状が贈られました。

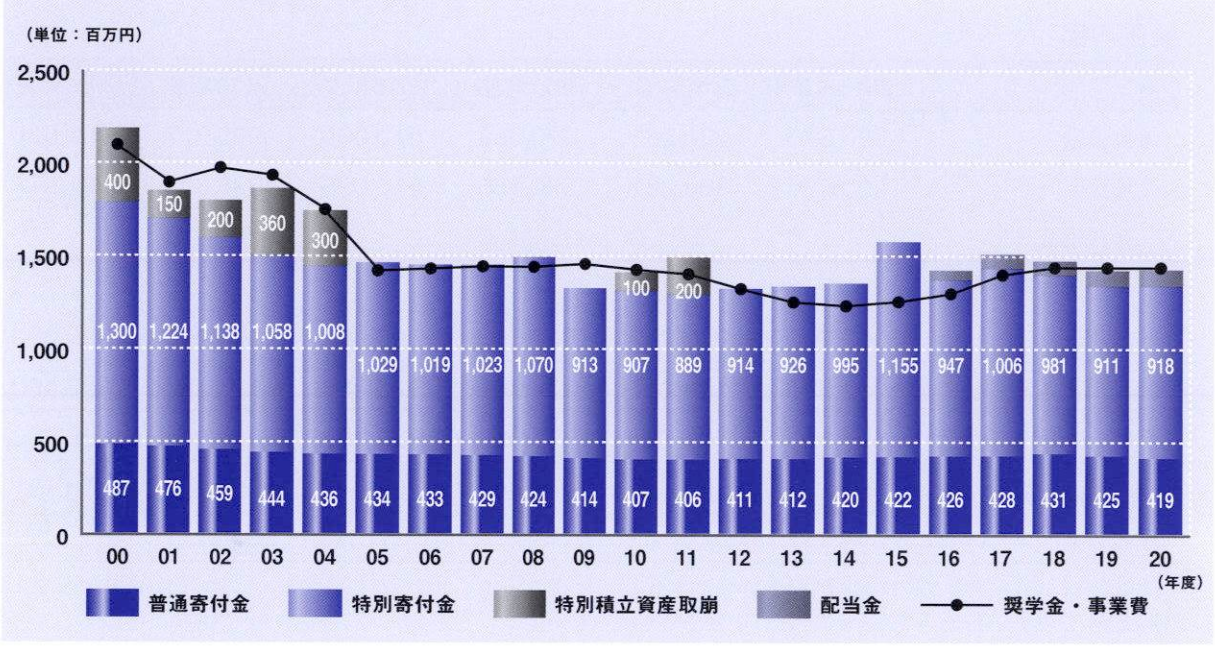
2020（令和２）年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第３項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2021（令和３）年８月
公益財団法人ロータリー米山記念奨学会

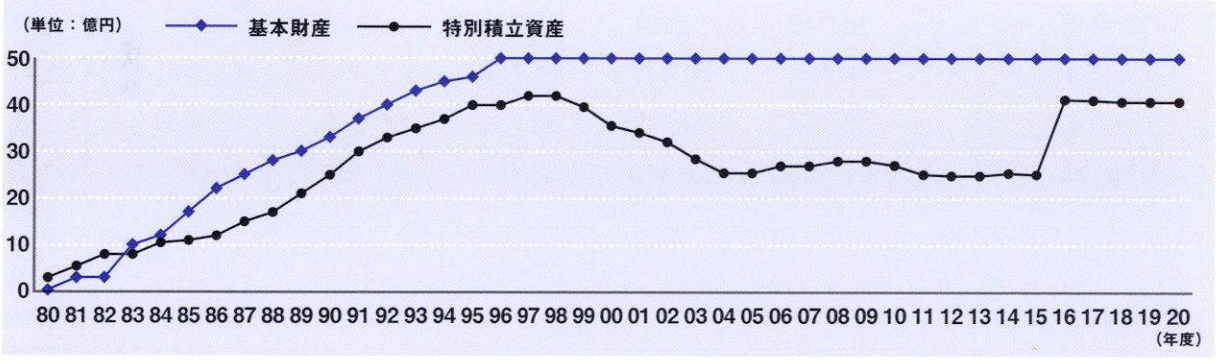
Ⅷ. 会計報告（2021年6月30日現在）

1. 目で見る財政の推移

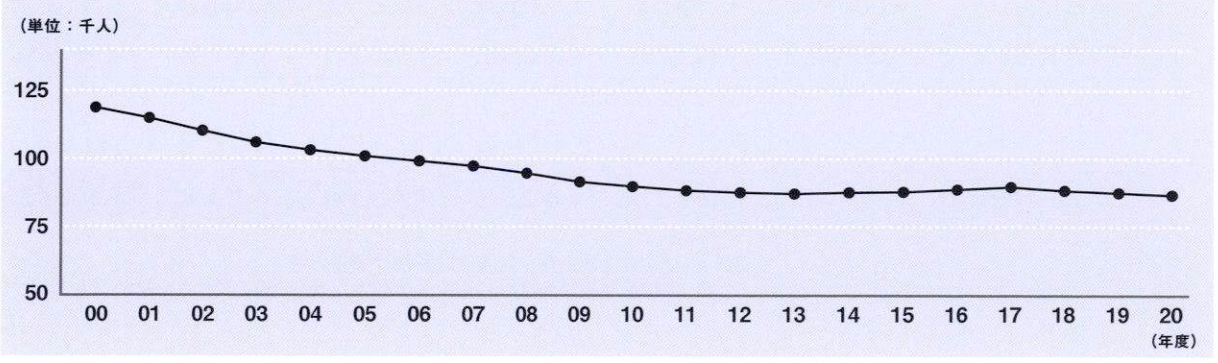
■寄付金と奨学金・事業費推移（2000年度～2020年度）



■基本財産・特別積立資産推移



■ロータリークラブ会員数推移（１月１日現在）



2. 貸借対照表

資産の部

（単位：千円）

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
流動資産	390,576	388,281	390,655	510,095	395,317	392,574
預金	390,576	388,281	390,655	510,095	395,317	392,574
金銭信託	0	0	0	0	0	0
その他流動資産	0	0	0	0	0	0
基本財産	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000
特定積立資産	2,503,324	4,125,021	4,124,056	4,123,150	4,123,150	4,123,150
奨学事業安定積立資産	594,140	702,730	802,030	732,062	814,814	828,806
その他固定資産	56,187	60,680	65,769	69,641	53,681	58,551
資産合計	**8,544,227**	**10,276,712**	**10,382,510**	**10,434,948**	**10,386,962**	**10,403,081**

負債の部

（単位：千円）

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
流動負債	6,042	2,301	3,715	3,429	4,586	1,844
固定負債	45,154	49,647	54,736	58,608	42,648	47,518
退職給付引当金	45,154	49,647	54,736	58,608	42,648	47,518
負債合計	**51,196**	**51,948**	**58,451**	**62,037**	**47,234**	**49,362**

正味財産の部

（単位：千円）

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
正味財産合計	8,493,030	10,224,764	10,324,059	10,372,911	10,339,728	10,353,719
（うち基本財産）	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000
（うち特定資産）	3,097,463	4,827,751	4,926,086	4,855,212	4,937,964	4,951,956

（単位：千円）

負債及び正味財産合計	**8,544,227**	**10,276,712**	**10,382,510**	**10,434,948**	**10,386,962**	**10,403,081**

（注）1. 奨学資金特別積立資産は特別積立資産と称する。
2. 各年度財務諸表は独立監査人の監査を受け、適正意見を受領しております。

3. 正味財産増減計算書

経常収益

（単位：千円）

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
普通寄付金	422,324	425,610	428,081	430,623	425,036	419,178
特別寄付金	1,155,052	947,436	1,005,729	980,943	911,285	917,660
（寄付金合計）	1,577,376	1,373,046	1,433,810	1,411,566	1,336,321	1,336,838
受取利息	70,418	102,968	121,219	128,081	138,679	167,489
経常収益計	**1,647,794**	**1,476,014**	**1,555,029**	**1,539,647**	**1,475,000**	**1,504,327**

経常費用

（単位：千円）

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
事業費	1,257,477	1,300,617	1,405,064	1,440,499	1,462,393	1,447,003
（うち奨学金）	1,055,720	1,095,220	1,168,080	1,216,990	1,240,413	1,243,250
管理費	64,607	66,813	50,669	50,297	45,790	43,333
経常費用計	**1,322,084**	**1,367,430**	**1,455,733**	**1,490,796**	**1,508,183**	**1,490,336**

（単位：千円）

正味財産の増減	**325,710**	**108,584**	**99,296**	**48,851**	**-33,183**	**13,991**

（注）1. 奨学資金特別積立資産は特別積立資産と称する。
2. 各年度財務諸表は独立監査人の監査を受け、適正意見を受領しております。

2021年度
事業計画・予算

（2021年7月1日～2022年6月30日）

Ⅰ. 奨学生の募集・選考 40

Ⅱ. 奨学生と学友（元奨学生） 44

Ⅲ. 世話クラブとカウンセラー活動 46

Ⅳ. 広報活動 47

Ⅴ. 寄付の推進 51

Ⅵ. 会議・専門委員会・セミナーの開催 51

Ⅶ. 業務委託 53

Ⅷ. 事務局の運営 53

Ⅸ. 予算（2021年7月1日～2022年6月30日） 55

Ⅹ. 主要年間計画表 56

＜事業理解促進と寄付増進＞

ロータリー米山記念奨学事業は2020年３月以来、全国的な新型コロナウイルス感染拡大による影響を受け、奨学生が入国できない事態の発生や、クラブ例会の休会・対面での交流や寄付金の減少、地区米山関連行事の延期、オンライン化・簡略化など、これまで経験したことのない不自由と苦労に直面してきました。そのような状況の中でも各地区では、ガバナー、地区米山奨学委員等の皆様がさまざまな工夫や対策を講じて、精力的に当事業の推進と寄付増進に尽力されています。

当会では、2022学年度は、前年比10名減の880名枠の奨学生採用で計画を策定します。2013年度以降の正味財産増加による剰余金を2015年度から奨学事業安定積立資産として積み立て、2018年度以降、計画的に取り崩して奨学事業費に充当していますが、感染症の影響が長引けば、今後の事業計画が円滑に進まなくなる懸念もあり、奨学事業への理解促進と寄付増進には引き続き、努力と工夫が必要となります。当会としては、各地区のガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニーの皆様に、さまざまな会合での「米山記念奨学事業理解」の機会を創出し、全てのロータリークラブ会員に米山記念奨学事業の使命、意義、成果についての理解を深めていただけるよう、又、育てていただいた米山学友を招聘するホームカミング制度や第４代よねやま親善大使を効果的に活用していただくように勧めていきます。

米山記念奨学事業は、ロータリーの国際奉仕であり多地区合同活動です。米山学友は、今日までに約２万２千人に上る規模となり、その出身は129の国・地域に広がっています。又、学友会は海外９、国内33が組織され、活発に活動しており、ロータリークラブや各地区が実施する国際奉仕活動においても、信頼できる良きパートナーとして、それぞれの地域でプロジェクトの懸け橋になったり、ロータリーの奉仕活動を広げる手助けをするなど、さまざまな活躍をしています。米山学友が中心となって設立されたロータリークラブも国内外に存在し、米山学友と学友会は、日本のロータリーだけでなく、世界のロータリーにとって貴重な財産とも言えます。2021年６月に予定されていた世界米山学友の集い「出会い in 台湾」は中止になりましたが、次回世界米山学友の集いでは、関東の米山学友会が中心となって「再会 in 関東」の準備を始めています。目下のところ2023年夏の開催を目指しており、より多くの学友と関係者が集まる交流の一大国際イベントとなることが期待されます。

日本のロータリー100周年の記念事業として発行された「ロータリー100年史」でも当事業について紹介されています。国際親善と世界平和の促進のため、米山記念奨学事業がさらなる飛躍を遂げられるよう、当会は最善を尽くしてまいります。

目的と使命

- 米山記念奨学事業を通じてロータリーの「奉仕の精神」に基づいた国際理解と親善及び世界平和の促進
- 学業・異文化理解・コミュニケーション能力などを備えた優秀な奨学生・研究者の支援
- 国際社会で活躍し、世界平和の構築と維持に貢献できる奨学生・学友の育成
- 知的国際貢献を目指す奨学金制度

重点目標

1. 各地区のガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニー、パストガバナー、地区米山記念奨学委員、当会の評議員・理事、監事、専門委員等と協働し、ロータリー米山記念奨学事業の理解促進と寄付増進を図る
2. 「再会 in 関東」の準備への支援と各学友会による積極的なプロジェクトを支援し、対外広報を強化するとともに国内外の学友会の横断的ネットワークを強化する
3. 第４代よねやま親善大使のWEBを利用した参加を含む全国へのPR活動への派遣
4. 全国でのホームカミング制度の効果的な活用を促進する
5. 多様な国と地域から採用できる海外応募者対象奨学金制度の促進

Ⅰ. 奨学生の募集・選考

1. 2022学年度奨学金と採用数、募集時期と資格等【2022学年度採用枠：880名枠】

奨学金の種類		採用枠数	月額	資格等			
				年齢	期間	募集方法・時期 選考方法・承認	対象者の条件その他
博士・修士・学部課程対象	博士課程 ロータリー米山記念奨学金 Rotary Yoneyama Doctor Course Scholarship 修士課程 ロータリー米山記念奨学金 Rotary Yoneyama Master Course Scholarship 学部課程 ロータリー米山記念奨学金 Rotary Yoneyama Undergraduate Course Scholarship	847名枠	博士・修士 14万円 学部 10万円	45歳未満	2年以内	●指定校・被推薦者数 決定：7月中旬 ●指定校・被推薦者数 公表：8月初旬 ●指定校からの受付 期限：10月15日 ●選考方法 ・地区選考委員会にて書類審査・面接試験 ・奨学会選考・学務委員会・常務理事会を経て理事会が最終決定する ●合格内定発表 (学校経由)： 12月中旬～2月初旬 ●最終合格決定：3月末	・文部科学省が所管する日本の大学・大学院に在籍し、留学ビザ難民資格を取得する留学生を対象とする。 ・指定校推薦制度により指定校留学生奨学金担当者を通して申込む。 ・対象国：限定しない ・対象学年： 学部課程3・4年、および医・歯・獣・医学部5・6年。 ・大学院修士課程1・2年。 ・大学院博士課程2・3年、および医・歯・獣・医学系博士課程3・4年。 修業年限により対象学年が異なる場合がある。
上記以外の高等教育機関対象	地区奨励 ロータリー米山記念奨学金 Rotary Yoneyama District Support Scholarship		大学以外の教育機関7万円／大学以外の学部相当の学年10万円	40歳未満	1年／2年以内		・文部科学省が所管する大学以外の日本の高等教育機関で留学・研修・文化活動ビザ、難民資格を取得する留学生を対象とする。 ・当会が指定校と認める大学以外の教育機関に在籍する者。 ・指定校推薦制度により指定校留学生奨学金担当者を通して申込む。 ・1名枠で2名採用が可能。 ・高等専門学校専攻科1・2年、専修学校高度専門士課程3・4年を学部課程3・4年相当とみなし1名枠1名で応募資格を認める。
奨学期間終了者で進学・進級予定者対象	クラブ支援 ロータリー米山記念奨学金 Rotary Yoneyama Club Support Scholarship		博士・修士 14万円 学部 10万円	―	1年または6ヵ月	●応募方法 世話クラブ推薦 ●4月採用締切：10月15日 10月採用締切：8月15日 ●選考方法 ・地区選考委員会にて書類審査 ・奨学会選考・学務委員会・常務理事会を経て、理事会が最終決定する ●合格発表： 4月採用： 合格内定発表： 12月中旬～2月初旬 最終合格決定：3月末 10月採用：9月下旬	・世話クラブが主体となって申込みを決める奨学金の延長制度。当制度導入地区のみ申込が可能。 ・延長期間に必要な奨学金額の半額を、合格内定後に世話クラブが寄付として納付する。 ・やむを得ず、単独で寄付を集められない場合は、複数のクラブで寄付金を集めることが出来る。 ・延長支援に相応しく、地区の広告塔となる現役奨学生を世話クラブが推薦する。 ・対象： ①奨学期間終了予定の奨学生(地区奨励と海外学友会推薦以外)で、4月(10月)に同地区または近隣地区所在※の大学の次の課程へ進学する者。海外応募者対象奨学金の場合は同課程の次の学年へ進級する者。留年は対象外とする。 ②博士課程最終学年に在籍する奨学生で、12カ月以内に学位取得を予定する者。 ③クラブ支援奨学金の終了予定者で博士号を取得していない者。(世話クラブの判断により、複数回延長申請ができる。ただし、留年は対象外とする。) ※近隣地区所在の大学に進学(在籍)する場合は、研究分野が変わらないこと、および世話クラブに通えることを条件とする。

奨学金の種類		採用枠数	月額	資格等			
				年齢	期間	募集時期 選考方法・承認	募集方法、応募条件他
上級研究者対象	海外学友会推薦 ロータリー米山記念奨学金 Japan Rotary Yoneyama Scholarship（Alumni）	3名枠（台湾：2名、韓国：1名）	14万円	50歳未満	1年	●学友会選考委員会が募集・審査・選考し、奨学会選考・学務委員会・常務理事会を経て、理事会が最終決定する ●募集： 夏～ 申込期限は、海外学友会に一任 ●当会への報告締切： 翌年1月末 ●合格発表：3月末	・台湾と韓国の学友会が募集・選考を行う。 ・博士号を取得済の上級研究者。 ・日常会話を日本語で行える者。応募時点で日本語による意思疎通ができない場合、入国までに日常会話を日本語で出来る準備をしておくことが望ましい。
渡日前入学合格者対象	海外応募者対象 ロータリー米山記念奨学金 Rotary Yoneyama Scholarship for Applicants Residing Abroad 試行期間： 2012-2016学年度試行期間 2017学年度から2年間の促進期間 2019学年度から本制度	30名枠 （2020学年度継続6名／2021学年度継続10名／2022学年度14名）	博士・修士 14万円 学部 10万円	45歳未満	2年	●募集締切： 12月15日 日本時間午後1時 ●募集・選考方法： ・当会事務局にて応募書類を受け付ける。入学予定校が所在する地区選考委員会にて書類選考し、奨学会選考・学務委員会・常務理事会を経て、理事会が最終決定する。 ・基本的に、書類選考によって評価するが、地区の方針で対面またはWebコミュニケーションツールを使用した面接や、応募者や指導教員に電話やメールによる聞き取りを行う場合がある。 ●合格内定発表： 12月中旬～2月初旬 最終合格決定：3月末	・2022年4月、9月または10月に、文部科学省が所管する日本の大学・大学院正規課程に在籍予定の外国人留学生。 ・学位取得を目的としている者。 ・長期履修学生制度の学生および研究生として入学予定の者は対象としない。 ・奨学金支給開始月までに、日本滞在歴がない者。ただし、以下のいずれかに該当する場合は、応募資格を認める。 ①日本滞在歴が通算31日以内の場合 ②両親の都合で、日本に一時期滞在した場合（ただし、期限は日本の義務教育期間まで） ③高校生の時にロータリー青少年交換で日本に滞在した場合 ※最終的に、渡日前入学制度を持つ大学を含む日本の入学校から発行された合格通知または入学許可書を提出することが応募条件となる。 ・募集枠 ・1地区につき枠外採用人数は最大1名、枠内採用人数は地区裁量とする。 ・基本的な日本語を理解することができ、来日後、日本語でのコミュニケーションに努め、米山奨学生として、交流を広げようとする意欲のある者。（日本語能力検定N4以上保持が望ましい。） ・対象国：限定しない ・対象課程：大学学部・大学院修士、博士課程入学者 ・奨学期間：2年間

2. 2022学年度奨学生採用数と奨学金別採用枠内訳

2021年度寄付金収入予測、株式の配当金収入、2022年度奨学資金安定積立財産の取崩収入を考慮し、2022学年度採用数枠を880名とする。奨学金別採用枠の内訳は以下の通り。

2022学年度 奨学金種類と採用枠	2022学年度採用枠	地区への配分方法
1. 学部(YU)・修士(YM)・博士(YD)奨学生	847	802 有資格者数、個人平均寄付額、寄付総額、特別寄付者割合で全地区に割り当てる
2. 地区奨励(DS)奨学生		
3. クラブ支援(CY)奨学生		45 配当金充当
4. 海外応募者対象奨学生	30	30 別枠
5. 海外学友会推薦(SY-A)奨学生	3	3 別枠
合　　計	880	880

3. 学部・修士・博士課程、地区奨励、クラブ支援、海外応募者対象ロータリー米山記念奨学金

(1) 地区別採用数・割当方法

地区別採用数は、地区内にある大学および高等専門学校専攻科を対象にキャンパス別に2021年４月現在在籍する留学生数と、2019年度の地区別寄付額を基準とし、更に2021年度株式配当金充当分を割り当てて決定します。2022学年度採用枠880名に対し、別枠33名を除く、採用予定数847名枠を次の方法によって34地区に割り当てます。

① 奨学生採用総数の１割（80名）を地区別有資格者数比率で34地区に割り当てます。
② 奨学生採用総数の３割（241名）を地区別個人平均寄付額比率で34地区に割り当てます。
③ 奨学生採用総数の５割（401名）を地区別寄付総額比率で34地区に割り当てます。
④ 奨学生採用総数の１割（80名）を特別寄付者割合で34地区に割り当てます。
⑤ 配当金充当分45名を34地区に各１名、第2760地区には前年を下回らないように、さらに11名振り分けます。（配当金充当分は69名で、残り24名は①～④で振り分けます。）

(2) 募集・申込方法

① 学部・修士・博士課程・地区奨励奨学生募集：指定校推薦

学部・修士・博士課程・地区奨励奨学生の募集は、指定校推薦制度に基づいて行います。８月初旬、ホームページに募集要項・申込書を掲載します。希望者は申込書をプリントアウトし、必要書類を添えて在籍する学校窓口に提出します。2014学年度奨学生募集から、学校からの申込みは、WEB専用画面上での登録受け付けを行っています。

募集期間：指定校発表後～10月15日

② クラブ支援奨学生募集：世話クラブ推薦

世話クラブが主体となって申し込む現役奨学生対象の奨学期間延長制度です。世話クラブは、延長期間の奨学金の半額を負担します。ただし、やむを得ず、世話クラブ単独で必要な寄付が集められない場合は、複数クラブで寄付を集めることが可能で

す。募集要項・申込書は、奨学会ホームページに常時掲載しています。希望者がいる世話クラブは、申込書をプリントアウトし、必要書類を添えて奨学会に提出します。

募集締切：（10月採用）８月15日、（翌年４月採用）10月15日

(3) 全国学校情報の収集と地区への提供（留学生担当者･在籍数･特長等）

毎年４月中旬から５月中旬に全国の大学・高等専門学校に対し、WEB回答方式のアンケートを実施します。調査結果は、①学校別在籍留学生数の把握、②地区別奨学生割当数における有資格者数把握、③学校との関係作りのための基礎資料 として活用されるように、各地区に配布します。地区において、正確な在籍有資格者数を把握し、地区単位で学校訪問や学校対象の奨学生募集説明会を実施し、地区選考委員会として推薦してほしい奨学生像を学校側に伝えることが必要です。各地区の方針が明確になり、指定校推薦制度の底上げに役立つよう学校情報を提供します。

1. 目 的	① 学校別在籍留学生数の把握 ② 地区別奨学生割当数算出における有資格者数の把握
2. 内 容	① 学校別担当者名と連絡先 ② 国・地域別、課程・学年別在籍者数 ③ 留学生受け入れ体制の特長
3. 対 象	全国の大学・高等専門学校
4. 調査方法	記名方式、専用WEBサイトでの回答

4. 海外学友会推薦ロータリー米山記念奨学金

(1) 採用数・割当方法

採用数は、３名（台湾：２名　韓国：１名）とします。割り当て方法は、地区別割当数とは別枠となり、原則、合格者の受け入れ地区は合格者の受け入れ大学が所在するロータリー地区とします。

(2) 募集・申込方法

台湾と韓国学友会選考委員会にて被推薦者を選定し、奨学会選考・学務委員会、常務理事会を経て、理事会が最終決定します。募集・選考にあたり、各学友会で選考委員会が組織され、透明で公正に行われます。申込希望者は「応募に必要な提出書類」を台湾と韓国各選考委員会の定める国内募集締切日までに提出します。

応募対象は、博士号取得済みの上級研究者とし、応募時点で日本語による意思疎通ができない者は、入国までに日常会話程度の日本語を習得しておくことが期待されます。

海外学友会選考委員会における被推薦者決定の期限は、2022年１月末とし、被推薦者の書類は各選考委員会から奨学会に提出されます。

海外学友会選考委員会申込受け付けおよび問合わせ先は募集要項に記載。

5. 海外応募者対象ロータリー米山記念奨学金（2019学年度より正規プログラムに移行）

(1) 採用数・割当方法

採用数は、2020学年度採用継続者６名、2021学年度採用継続者10名、2022学年度採用新規奨学生14名枠（予定）となります。地区別割当数とは別枠で選考地区に割り当てます。採用する場合、１地区につき枠外（別枠）採用人数は最大１名、割当数枠内での採用人数は地区裁量とします。

(2) 募集・申込方法：個人応募

申込時点で日本以外の国に居住し、日本の文部科学省所管の大学への入学許可を得る

ための手続きを済ませた日本留学希望者を対象とした公募の奨学金です。渡日前入学許可制度をもつ大学など、日本の入学予定校から合格通知や入学許可書が発行され、入学手続きを完了することが、応募の最終条件です。

応募者は、必要書類を揃えて奨学会に提出します。選考は、入学予定校が所在する地区選考委員会が行います。

募集締切：12月15日　日本時間午後１時

(3) 入学校所在のロータリー地区が書類審査

応募者の入学予定校が所在するロータリー地区が、応募書類を基に選考します。応募者が海外にいるため、基本的に書類審査としますが、地区の方針によって現地面接やWebコミュニケーションツールを使用した面接や、応募者や指導教員に電話やメールによる聞き取りを行う場合があります。合格者は入学予定校が所在するロータリー地区で書類選考を受け、採用された場合、当該地区所属の奨学生となります。積極的に採用したい地区は、地区内所在大学と連携することで、計画的な採用が可能です。

(4) 入国初年度からの支援の意義

この制度の意義は、留学生にとって一番辛いと言われる“来日初年度から支援する”ことです。来日と同時に、“経済的支援”と“ロータリー会員による心の支援”を受けられる制度は、来日したことのない留学生にとって大きな支えとなります。

海外に居住する日本留学希望者が、入学を希望する大学を決定していることが申込の条件です。その大学が渡日前入学許可制度を持っていることが、来日せずに入学許可書が発行される点で理想ですが、最終的に入学予定校の合格通知が発行されれば奨学生として採用できます。

(5) 多様性と日本語能力への期待

優秀且つ多様な研究分野と出身国からの学生の採用が期待される奨学金制度として施行開始されましたが、世話クラブやカウンセラーとの交流における日本語運用能力を重要視する声も多く、2019学年度からは「基本的な日本語を理解出来ること（日本語能力検定N4以上保持が望ましい）」が条件となりました。

(6) 奨学金額

既存の学部・修士・博士課程（YU·YM·YD）奨学金と同額の奨学金とし、採用初年度に限り来日のための渡航費補助として上限25万円までの実費を日本円で支給します。

学部生	月額 10 万円	初年度： 来日のための渡航費補助を実費として、 上限25万円まで日本円で支給
大学院生	月額 14 万円	

Ⅱ. 奨学生と学友（元奨学生）

1. 終了奨学生アンケート（2019年から３年ごとに実施）

今後の奨学金プログラムに役立てるため、２月初旬から４月下旬にアンケート調査を実施します。この結果は、奨学生、カウンセラー、世話クラブ制度に生かすため、「奨学生ハンドブック」、「カウンセラー・ハンドブック」、カウンセラー研修会資料作成などに活用します。個人情報は公表しないよう厳守します。

2. ホームカミング制度

学友の活躍を広く周知し、より多くの会員に米山奨学事業の意義と成果を実感してもらう機会を創出することを目的とし、2008年度に本制度が設立されました。翌年度には日本国内居住者も招へい可能となり、また、制度のさらなる活性化をはかるために、2013年度からは年間の招待人数の上限を各地区２名としています。

2018年度と2019年度の実施件数は減少傾向にあったものの活躍する学友の掘り起こしに有効な制度であり、海外から招へいするケースが増えていました。しかし、2020年度は、新型コロナウイルスの世界的流行の影響を受け、実施は１件となりました。次年度も集合形式での行事開催の減少が予想されますが、開催の際には当制度を活用いただけるよう呼びかけます。なお、補助費申請締切は2022年５月末とし、昨年同様、学友１名につき上限25万円を補助します。

3. 学友のフォローアップ

奨学生の累計は現役奨学生を含めて22,267名（2021.4現在）となりました。そのうち日本在住の学友（元奨学生）は約3,700名です。外交官として日本との懸け橋となる者、経済界で中心的リーダーシップを果たす者、行政・教育・医療・福祉など各界で活躍する者など、多くの学友が活躍しています。寄付の成果でもある学友の活躍や社会的貢献について、ロータリアンの関心が高まっている今、学友に関する情報の収集と提供を更に充実する必要があります。そのため事務局は下記の役割を担います。

(1) 奨学生・学友（会）との連絡

奨学生と学友あてに誕生日メールを配信します。また、この誕生日メールへの返信や奨学会ホームページのログイン画面からの変更登録などが、定期的なメール交信と合わせて消息情報となり、継続的な奨学生・学友情報管理や、奨学会の広報活動に役立てられます。これらの情報を個人情報の保護及び管理に関する規程と、個人情報保護の方針に従って必要に応じ、各地区のガバナー事務所、関係ロータリアン、学友会、ロータリークラブに提供します。

国内外において大きな災害が発生した場合は、メールによる安否確認、被害状況の把握に努めます。

(2) ロータリアン、クラブ、ガバナー事務所との連携

カウンセラー経験者、元・現米山委員、関係ロータリアン、ガバナー事務所、クラブなどの協力を得て消息情報の収集、提供と管理を行います。

(3) 在日学友への年賀状送付

学友の住所確認、現状把握を目的に、2017年度から在日学友および学友会会長に年賀状を送付します。海外在住の学友会会長には、メールを送付します。

4. 学友会活動の支援

学友が、奨学期間終了後もロータリー会員・家族または学友同士の交流を続け、奉仕活動やロータリー地区プログラムに参加できるように支援をします。学友同士のネットワークを強化し、自主的な運営を促し、関係するロータリー地区との協力・連絡体制の充実を図ります。

2022年度以降に、日本国内の関東に所在する学友会が、合同で学友主催イベントを開催予定です。世界の米山学友、そして、日本のロータリアンが多く参加する大規模なイベントであることから、広報協力に加え、補助費を支給して運営を後援します。

(1) 国内ロータリー米山記念奨学会学友会

日本在住の学友および奨学生によって各地区・地域で自主的な活動が行われていま

す。現在、国内34地区33学友会が組織されています。地区内ロータリー活動への参加、インターネットによるネットワークの拡大、総会や親睦会の開催、学友会報の刊行、奉仕活動など学友会の自主的な活動を支援します。

(2) **海外ロータリー米山記念奨学会学友会**

台湾、韓国、中国、タイ、ネパール、モンゴル、スリランカ、マレーシア、ミャンマーで学友会が設立され、現在９学友会が海外で組織されています。学友会では、帰国した学友の歓迎会、地域での奉仕活動など自主的活動を行います。特に、「海外学友会推薦ロータリー米山記念奨学金制度」の自国での募集の窓口となり、学友とロータリアンおよび有識者で構成される選考委員会を組織し、奨学生の選考という重要な役割を果たします。なお、台湾、韓国学友会以外の当奨学金制度の導入は体制が整い次第、次年度以降に計画します。

(3) **ロータリー米山記念奨学会学友会セミナーの実施**

隔年で開催することになっている「学友会セミナー」は、2019年度（2020年５月）に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス拡大に伴い延期し、2020年度（2021年６月26日）にZOOM形式で開催しました。

日本の学友会および海外学友会の代表者が参集し、このセミナーで、学友会運営に携わる学友が如何にロータリークラブと連携して意義ある活動を展開していくか、さらに学友が活躍する場をどのように創出していくのか、持続的な学友会組織運営を協議し情報共有を行いました。次回の開催日程や形式については、専門委員会にて検討をしていきます。

Ⅲ. 世話クラブとカウンセラー活動

1. 新規奨学生とカウンセラーのためのオリエンテーション

毎年４月から５月にかけて新規奨学生およびそのカウンセラー対象のオリエンテーションが各地区にて開催されます。奨学生の心得・守るべきこと、奨学金額や奨学期間が明記された「確約書」が取り交わされます。奨学生のみならずカウンセラーも共に、確約書の内容の理解を深め、経済的支援だけにとどまらない世話クラブ、カウンセラー制度の素晴らしさを体験し絆を深めることの必要性を伝えます。

特に、奨学事業の評価は“どんな奨学生を採用し、彼らがどう育っていったか”にかかっていることを強調し、奨学期間に奨学生とカウンセラーとして接するだけでなく、巣立った後も関わりを持ち奨学事業の成果を育み続けることの重要性を奨学生にもカウンセラーにも理解していただきます。オリエンテーション実施者に対して、オリエンテーション説明者用資料を提供します。

2. カウンセラー研修会

カウンセラー研修会は、2002年より実施されています。奨学事業の特長である「カウンセラー制度」の充実と強化を図ることを目的に、カウンセラーを対象とした研修会が全地区で実施されることを目標とします。補助費は、申請に応じて、７月１日時点の奨学生数×3,500円、講師料（奨学生・学友・ロータリアンは含まない）は実費支給で上限３万円を支給します。

各地区の研修会の説明者に対して、研修用資料としてパワーポイントを提供します。特に、文化・習慣の違いや考え方の違いに関する事例を示し、カウンセラーとしてどのように振る舞い対応することが求められるかなどの事例研究をカウンセラー・ハンドブックに掲載し、補助資料と

して活用いただくことを呼びかけます。また、各地区における危機管理対策を確認し、ハラスメントへの認識を持つことの重要性を研修会で呼びかけていただくよう研修資料に記載します。

3. カウンセラーアンケート

カウンセラー制度の実態把握のため、３月から４月末にアンケート調査を実施します。この結果をカウンセラー、世話クラブ制度に生かすため、「奨学生ハンドブック」、「カウンセラー・ハンドブック」、カウンセラー研修会資料作成などに活用します。個人情報は公表しないよう厳守します。

Ⅳ. 広報活動

ロータリー米山記念奨学会では「広報」を最も重要な取り組みの一つとし、地区で米山記念奨学事業の推進にあたる評議員、理事、地区米山記念奨学委員長をはじめ、国内ロータリー関係者に対する内部広報を強化するとともに、大学や関係諸団体、一般社会などに対する対外広報にも努め、一層の周知を図ります。

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、台湾で開催予定だった国際ロータリー年次大会をはじめ、地区やクラブにおけるさまざまな行事や活動が中止、もしくはオンライン開催となり、当事業の真髄である「交流」の機会がほとんど失われました。

今なおコロナ禍と言われる状況が続くなか、ロータリアンおよび奨学生の当事業およびロータリーへの理解促進を図る目的で、2021年度は動画コンテンツの拡充を目指します。また、現状において活動の機会が少ない第４代よねやま親善大使の活用を積極的に呼びかけ、新入会員にもわかりやすいリーフレットをリニューアル発行するなど、直接対面せずとも事業の成果を伝えることのできる環境作りに努めてまいります。

1. シンボルマークの商標登録とマーク利用ガイドラインの整備

両手で支えるハートをイメージした当事業のシンボルマークは、現在、米山関係者に広く浸透し、国内外の米山学友会にも広く使用されています。そのため、当会ロゴマークを含むマーク全般の取り扱いについて一定のガイドラインを設け、適切に使っていただくよう呼びかけていきます。同時に、シンボルマークの商標登録を行うことで、当事業への信頼性と価値を守ってまいります。

2. 50周年記念誌

財団設立50周年記念事業として2017年度から頒布を開始した50周年記念誌について、2021年度からは無料頒布に切り替え、当会役員の参考資料や地区における米山研修資料など、理解促進のツールとして活用します。

3. ＤＶＤ・記録映像・動画コンテンツの活用と拡充

コロナ禍で飛躍的に伸びた動画視聴率に対応すべく、2021年度は映像コンテンツの拡充に力をいれます。制作する動画は１本あたり５分程度と気軽に視聴できるものとし、当会公式YouTubeチャンネルでの公開を基本とします。その他既存の映像はホームページで動画配信するとともに、希望する地区・クラブへＤＶＤを配布し、クラブ、各種会合、セミナーなどで活用していただくよう促進します。

◇事業紹介用ＤＶＤ◇

・「世界へ届け 米山の懸け橋 ―ロータリー米山記念奨学会 財団設立50周年記念―」
（2017年制作 15分、英語版あり）

・「世界に平和の種をまく」（2016年制作 ３分）

◇学友インタビュー・学友紹介◇

・第４代よねやま親善大使自己紹介動画（2021年１人10分程度）

・モンゴル米山学友会制作「絆inモンゴル」オープニングビデオ（2019年 19分）

◇活動報告◇

・世界に羽ばたくYONEYAMA in SEOUL（2016年制作 16分）

4. よねやま親善大使

2020-21年度は、前年度に引き続き、第４代よねやま親善大使の３人にロータリー内外に対する当事業のＰＲに協力してもらいます。要請に応じて、日本各地区で開催される地区大会や米山セミナーなどで当奨学事業の意義や成果をアピールしてもらうほか、日常の社会活動の中でも積極的に親善大使の名刺を配るなど、ロータリー以外の人にも当事業を認知してもらうよう努めてもらいます。よねやま親善大使研修は年１回実施し、スピーチに役立ててもらいます。

5. ロータリーの友・よねやまだより

国際ロータリーの地域雑誌である「ロータリーの友」に、ロータリーの友事務所編集部の協力を得て、ロータリー米山記念奨学会のページ“よねやまだより”を毎号掲載します。通常各月２ページ、米山月間である10月号には５ページをいただき、特集ページとします。

毎月、文部科学省・海外学友会などの関係者用に、ロータリーの友事務所から「ロータリーの友」を購入し発送します。これまで毎月発送していた奨学生分の「ロータリーの友」は、2018年度から世話クラブ活動補助費を増額し、クラブの判断で購入していただいています。指導教官についても、従来、10月号のみ奨学生を通じて配布していましたが、2018年度から配布を中止しています。

6. ロータリー米山記念奨学事業・豆辞典

米山記念奨学事業の概要を紹介する小冊子を作成し、米山月間用資料として、全ロータリアンに配布します。また、希望に応じて随時ロータリー地区やクラブなどに配布します。

7. クラブ米山記念奨学委員長の手引き

「豆辞典」をもとに寄付金マニュアルを含めた手引書です。奨学事業について解説するクラブ米山記念奨学委員長を対象として発行し、全クラブに配布します。

8. 米山学友の群像

米山学友の群像は、巣立った学友の活躍や学友会の活動を紹介する好評の冊子です。希望に応じてロータリー地区やクラブ、大学など関係団体を対象に配布することにより、奨学事業の成果を広く知らせます。

9. 寄付金増進

寄付金マニュアル：寄付金納入の手続きや税制上の優遇措置、表彰制度など寄付金につい

て必要な基本情報や個人情報保護の対象となる寄付金実績の取り扱いなどを詳述したマニュアルを作成し、全ロータリークラブに配布します。

寄付者へのメッセージ：寄付者への感謝のメッセージとともに米山記念奨学事業への理解をより一層深めていただけるチラシを作成して、申告用領収証に同封して送付します。

10. 事業報告書（Annual Report）

事業計画、事業報告、予算、決算など財務諸表および奨学金制度など奨学事業の概要が記載されています。

11. 奨学事業ハンドブック

地区奨学委員会の実務マニュアル。年間計画に基づき、行事や提出書類の締切などを明記し、より実務に沿った冊子にします。また、割当数決定から始まる指定校選定、面接選考、合否、世話クラブ決定、オリエンテーション実施までの手順をマニュアル化します。指定校選定・奨学生選考における留意点を、実例を挙げて説明し、より実践的な手引書として作成、地区役員・委員、ガバナー（地区）事務所や関係者に配布します。

12. 面接官の手引き

2012年１月４日にロータリー米山記念奨学会は、公益財団法人となりました。これを機に、2013学年度奨学生採用から、「全国統一の選考基準と評価表」を策定し、基準に沿った奨学生選考を行っています。冊子「面接官の手引き」と補助資料のパワーポイントでは、全国統一の選考基準の他、面接官の心得として「面接基本マナー、守秘義務・個人情報の管理、公正で透明な選考、基本的人権への配慮・プライバシー侵害への認識」等について説明しています。これらの注意事項を面接官に周知いただくための「面接官対象のオリエンテーション」を全地区で開催いただくよう呼びかけます。今後は地区へのさらなる評価項目や採点方法の理解徹底を行い、米山記念奨学生として相応しい学生を採用できる有効な方法を構築します。

13. カウンセラー・ハンドブック

世話クラブ、カウンセラーの役割、奨学生の心得と各種手続きなどについて記載したカウンセラー用ハンドブックです。全カウンセラーおよび世話クラブに配布します。

14. 奨学生ハンドブック

奨学生の心得と各種手続きを説明し、世話クラブやカウンセラーをはじめとしたロータリアンとの交流で留意する点をQ&A形式でまとめた奨学生用ハンドブックです。奨学生、カウンセラー、合格した新規奨学生の学校の担当者に配布します。

15. 英文リーフレット

海外向けの事業広報ツールとして2015-16年度に改訂版を発行した英文リーフレットを、希望する個人やクラブ、地区、海外のロータリアンへ配布します。

16. 事業紹介リーフレット・よねやまガイド

一般への広報や新入会員向けの事業広報ツール「よねやまガイド」の改訂版を制作し、希望する個人やクラブ、地区に配布します。

17. 米山記念奨学事業紹介バナー

各種セミナーや行事で米山記念奨学事業のアイキャッチとして好評の自立式バナースタンド（2015-16年度改訂版）を、希望地区に頒布します。また、大会場での展示向けに、グラフィックバナー（４枚１組、１枚あたり縦200cm×横95cm）と、2021年度からは新たにロゴ旗（縦210×横140cmと縦135×横90cmの２種）をラインナップに加え、希望する地区やクラブに貸し出して掲揚していただきます。

18. 米山記念奨学会ホームページと情報公開　http://www.rotary-yoneyama.or.jp/

ロータリー米山記念奨学会の紹介や奨学生募集情報、米山奨学生・学友の活躍を、ホームページを用いて広く一般に広報します。また、奨学事業に関わる情報（定款、評議員・理事名簿、財務諸表、事業計画・報告、予算）を公開して一般の人々の理解と関心を高めます。また、ロータリアン向けに各ロータリークラブの寄付金納入実績を掲載し、寄付金の現状を提供し、広報資料をダウンロードできるよう掲載します。ホームページは日本語のほか、英語のページを設け、日本留学希望者へ奨学金情報を提供します。また、facebook（フェイスブック）に設けた米山の公式ページにおいて、各地区の米山関連イベントや学友情報、留学生にとって役立つニュースなど迅速な情報提供に努めます。

19. 電子メールによる情報発信・提供：ハイライトよねやま

Ｅメールとホームページを通じ、クラブやロータリアン向けに「ハイライトよねやま」を発行し、奨学事業の最新ニュース、寄付金状況速報、学友情報などを発信します。

20. スピーチ特撰集

学友の秀逸なスピーチを収録したハンディサイズのブックレット１～２巻を、希望者に配布します。

21. 米山バッジ

2020-21年度にリニューアルしたバッジを、ガバナー、理事・評議員、地区米山記念奨学委員などへ配布し、米山記念奨学事業のＰＲならびに事業に関わる人たちの連帯感づくりを目指します。

V. 寄付の推進

ロータリー米山記念奨学事業を維持するために必要な寄付額を具体的に提示し、ガバナー、理事、評議員、米山記念奨学委員長、パストガバナーの協力を得て寄付目標の達成を図ります。寄付の目的·意義、学友活動報告、寄付状況等きめ細かい情報をタイムリーに提供し、奨学事業への理解を深め、今後より一層の寄付増進を図ります。

1. 普通寄付金

普通寄付金は、当会事業の安定財源となるご寄付です。毎年金額が変動する特別寄付金だけでは、留学生への奨学金給付という公益事業の安定的・継続的な財源とはなりません。当会では財団設立当初から、全ロータリークラブに安定財源としての普通寄付金をお願いしてきました。多地区合同活動として日本の全34地区が参加しているこの事業へのご理解を深めていただき、奉仕の実践として、普通寄付金のご送金をお願いします。また、クラブからの申請により、税制上の優遇措置も特別寄付金と同様に受けることができます。申請方法は当会ホームページをご覧ください。

2. 特別寄付金

特別寄付金は個人、ロータリークラブまたは法人として、普通寄付金以外に寄付されるもので、税制上の優遇措置を受けることができます。2012年１月以降の寄付金から個人の所得税に関しては税額控除と所得控除のどちらかを選択できるようになりました。また、2013年１月分の寄付金から全寄付者に対して領収証を発行することになりました。この寄付金控除の特典を周知徹底して特別寄付金の増進を促します。更に各個人やロータリークラブや寄付者の情報をデータベース化します。

3. 表彰制度

現行の表彰制度の周知徹底を行うとともに、引き続き第２回、第３回目の米山功労者マルチプルとなっていただけるよう、更なる広報活動を行い、一層の寄付の増進を促します。また、法人に対する表彰制度も認知が深まるよう、法人寄付の増強も行います。

4. 遺言による寄付金

遺言寄付に対しては相続税法上の優遇措置を受けることができます。遺贈した財産は相続財産から控除されます。また、相続税の申告期間内に相続人から寄付（相続財産からの支出）される場合も、相続財産から控除されます。生前より目標額を定めて積み立てる寄付金制度と併せて、寄付者の意思を反映させた制度として充実させます。

VI. 会議・専門委員会・セミナーの開催

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会の最高決定機関である評議員会、業務執行機関である理事会、および常務理事会・専門委員会を開催します。これからの新しい時代に即した更なる財団運営について真摯に取り組みます。また、より公正・公明な組織運営を行うため地区代表者を対象とした各種セミナーを開催します。

1. 評議員会

年１回定時評議員会を開催し、理事及び監事の選解任、定款変更および決算等重要事項を審議します。

2. 理事会

定時理事会として年２回理事会を開催し、業務執行の決定、事業計画・予算、事業報告・決算等を審議・決定します。

3. 常務理事会

年４回以上常務理事会を開催し、専門委員会から提案された事項や事業運営について審議し、理事会へ上程します。

4. 専門委員会

奨学事業を推進するために、選考・学務委員会、財務委員会、広報委員会の３つの専門委員会を設置します。

専門委員会は担当理事、理事、評議員およびロータリアン有識者によって構成されます。年間２回～４回の委員会を開催してそれぞれの分野における調査研究とそれに関する提言・提案を策定し、理事長に報告します。専門委員会の主な職務は次のとおりです。

(1) 選考・学務委員会
この法人に応募する奨学生候補者の選考を行う。
選考および学務に関する事項の調査研究とそれに関する提言・提案を策定し、理事長に報告する。

(2) 財務委員会
財務・会計・寄付に関する事項の調査研究とそれに関する提言・提案を策定し、理事長に報告する。

(3) 広報委員会
広報に関する事項の調査研究とそれに関する提言・提案を策定し、理事長に報告する。

(4) タスクグループ
常務理事会の委嘱を受けて作業委員会を組織し、特定の課題の検討、問題の解決を図る。（2019年度：規程検討委員会）

5. ガバナーエレクト・ガバナーノミニーに対する事業紹介

次年度の地区のロータリー活動推進者となるガバナーエレクトに対して、理解促進と協力の重要性を訴えます。９月開催のＧＥＴＳ（ガバナーエレクト研修会）では、事業説明や学友のスピーチを通じ米山記念奨学事業の意義を説明し、11月開催のロータリー研究会にあわせて行われるＧＥＴＳおよびＧＮＴＳにおいても米山記念奨学会の時間を設けていただき、地区の寄付目標の設定やホームカミング制度の積極的な活用をお願いします。

6. 次期米山記念奨学委員長セミナー

次期米山記念奨学委員長を対象に12月と６月にセミナーを開催します。

米山記念奨学生として相応しい学生の採用方法やカウンセラー制度の強化、学友会の運営、海外応募者対象奨学金制度などの具体的な実務への理解を進め、問題への対応事例の共有など、委員長同士の交流と議論の場を持つことによって、地区での米山記念奨学事業の円

滑な促進を目指します。併せて、次年度寄付目標について具体案を出し合います。

(1) 次年度のロータリー米山記念奨学事業の実務担当となる米山記念奨学委員長は、ガバナーエレクトが示す地区の目標に従って、地区米山記念奨学事業を推進します。また、奨学事業の現況、寄付状況の把握、寄付増進の方策、募集・選考システムの理解、地区内大学との関係促進など、委員長の役割について研修します。

(2) 奨学事業の価値を決めるのは“どんな奨学生を採用したか”にかかっています。全国34地区のガバナーと地区米山記念奨学委員長に対して、奨学生選考基準、面接官としての責務と心得、面接官育成の重要性を強調します。

(3) 奨学期間が終了しても続く交流を目指し、奨学期間中のカウンセラーとの関わり方や、終了後の積極的な学友会への参加促進について議論し、その方法を検討します。

Ⅶ. 業務委託

1. 財団と地区との業務委託に係る覚書

2020学年度から地区との業務委託に係る覚書の締結を開始しました。以降、毎年、学年度ごとに覚書の締結を行います。

2. 地区と世話クラブとの業務委託に係る覚書

地区と世話クラブとの関係は、奨学生との交流・奨学金支給等、業務の再委託の関係であることから、覚書の締結を依頼します。

Ⅷ. 事務局の運営

1. 法人事務局運営

- 評議員会・理事会・常務理事会・専門委員会の決定事項執行に際し、担当役員との綿密な打合せ、職員の相互協力により課題解決と目標の達成を行います。
- 評議員会・理事会・常務理事会・専門委員会等の円滑な運営の為、課題整理・情報共有に向け事務局協力体制を強化します。
- 全国ガバナー事務所、地区米山記念奨学委員長への速やかな情報提供に努めます。また、情報収集・提供をより充実させる為、継続して現行の情報システムを検証し、使い手のニーズにあったシステム構築を目指します。
- 資産運用は国債を中心とし、低い金利水準の為、規程に基づきリスクの低い金銭信託等での運用を柔軟に行います。

2. 公益法人としての整え

- 公益法人として、公平性・公正性・透明性に留意した事業遂行と事務処理をします。
- 法令を遵守し、高いモラルの維持、危機管理、緊急事態への迅速な対応を行います。

3. 個人情報保護

- 個人情報保護に関する法令、ガイドラインおよび個人情報保護方針、個人情報の保護および管理に関する規程を遵守します。

- 個人情報保護に関し、ホームページを始めハンドブック、各種資料に個人情報保護の方針、個人情報の取り扱い注意と留意点を明記し、適切な対応を徹底します。

4. 職員研修と業務改善

- スタッフの意識高揚、業務の効率化等、能力・資質を高めるための研修（ＯＪＴ/ＯＦＦＪＴ）を行います。
- 人権意識を高め、マイナンバー制導入により、更なる個人情報保護、個人情報の漏洩予防に関する研修を行います。
- 課題別調査・アンケート結果を十分検討し、担当業務の改善・刷新に役立てます。
- 事務局運営の合理化を図り、経費の節減、業務の効率化を進めます。

5. 行政・他団体との連携

- 内閣府、文部科学省、外務省、国際協力機構、留学生奨学団体連絡協議会（ＪＩＳＳＡ）、国際教育交流協議会（ＪＡＦＳＡ）、公益法人協会など、関係団体との協力関係の維持に努めます。

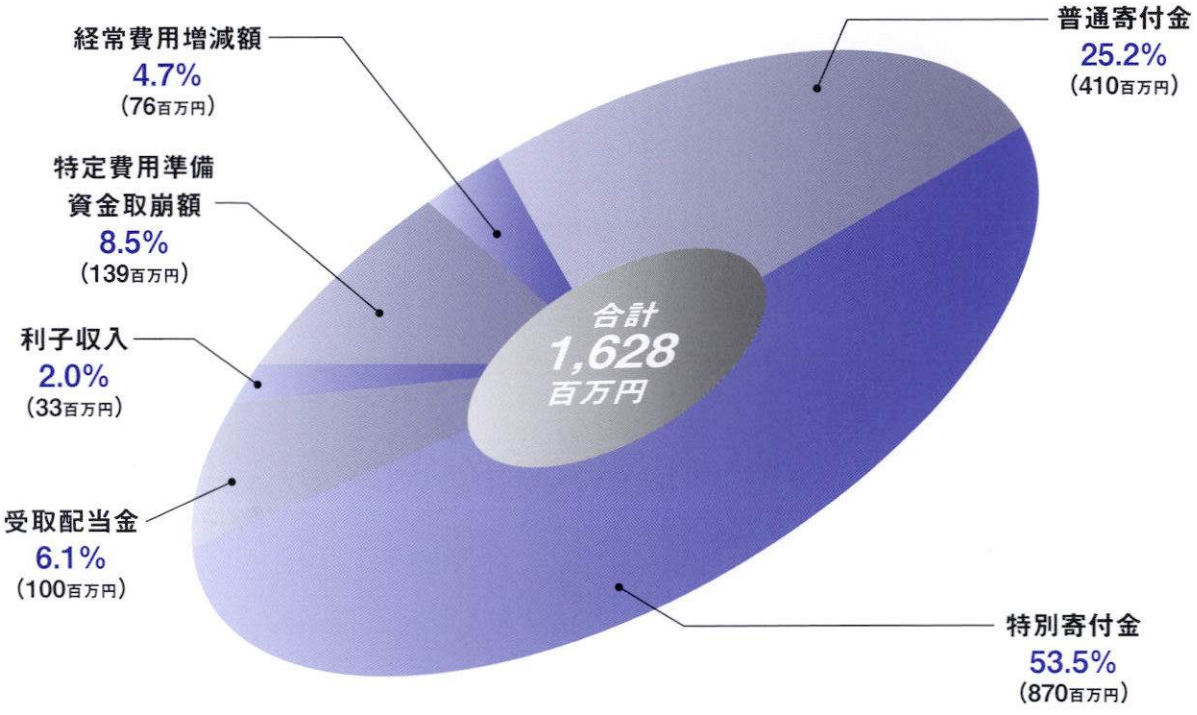
6. システム開発

- 業務システムの新規開発はありませんが、寄付・学務の各業務のデータ連携基盤として契約しているクラウド型データ連携サービスが2021年９月に終了するため、同様の機能をもつ別サービスに移行するためのシステム開発を行います。

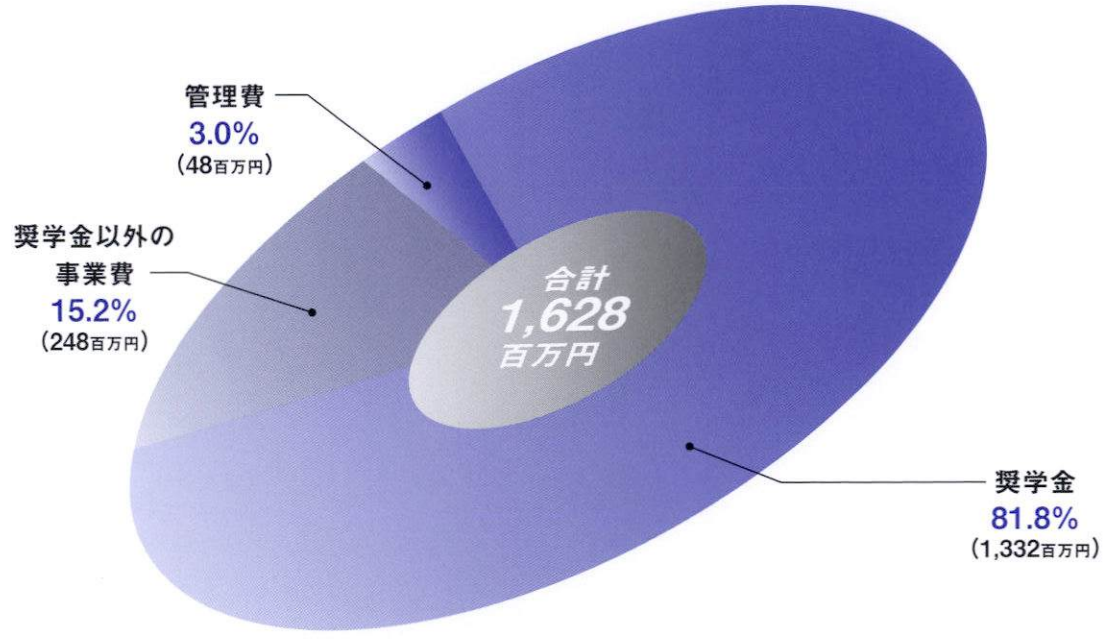
Ⅸ. 予算（2021年7月1日～2022年6月30日）

経常増減の部

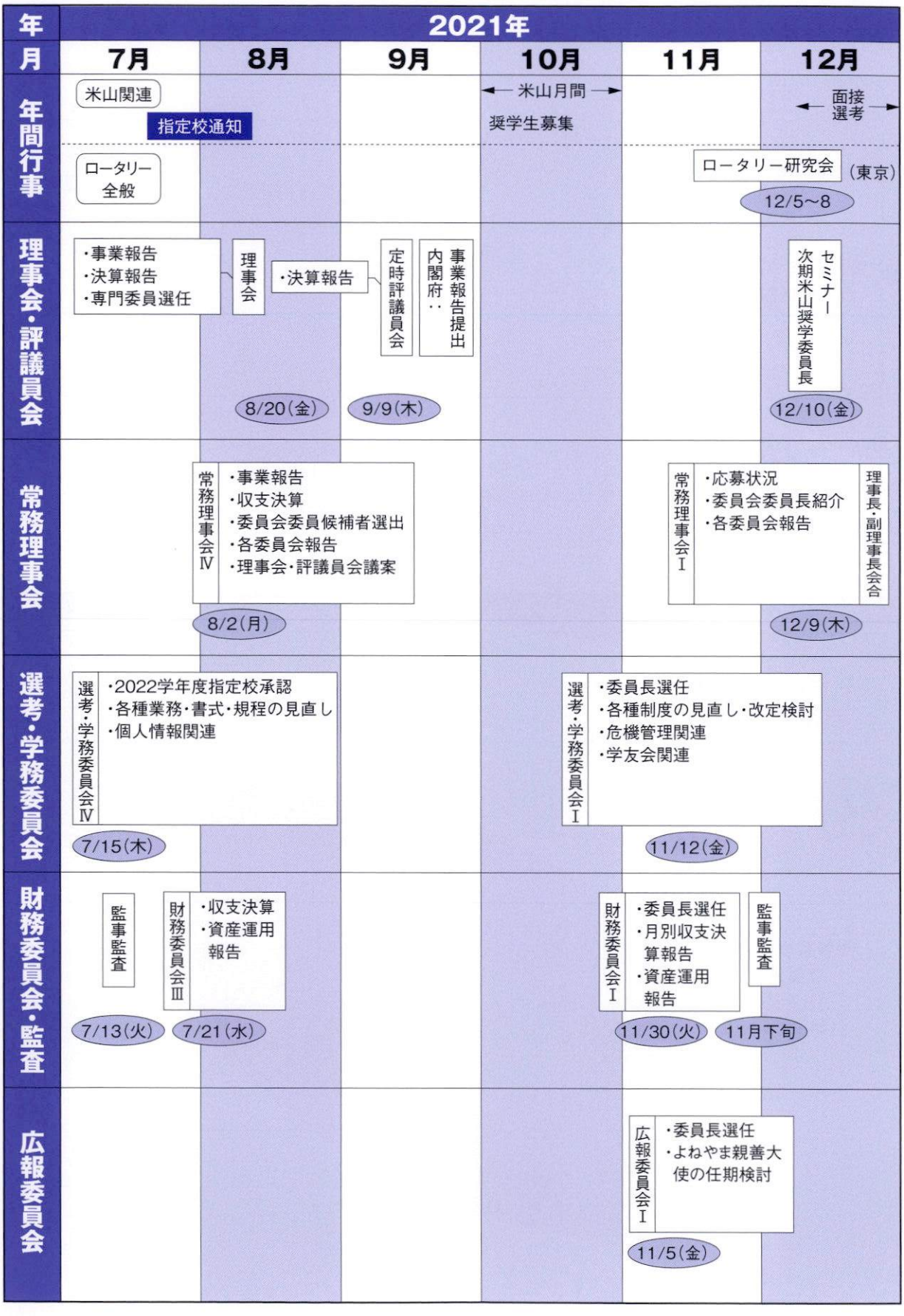
経常収益



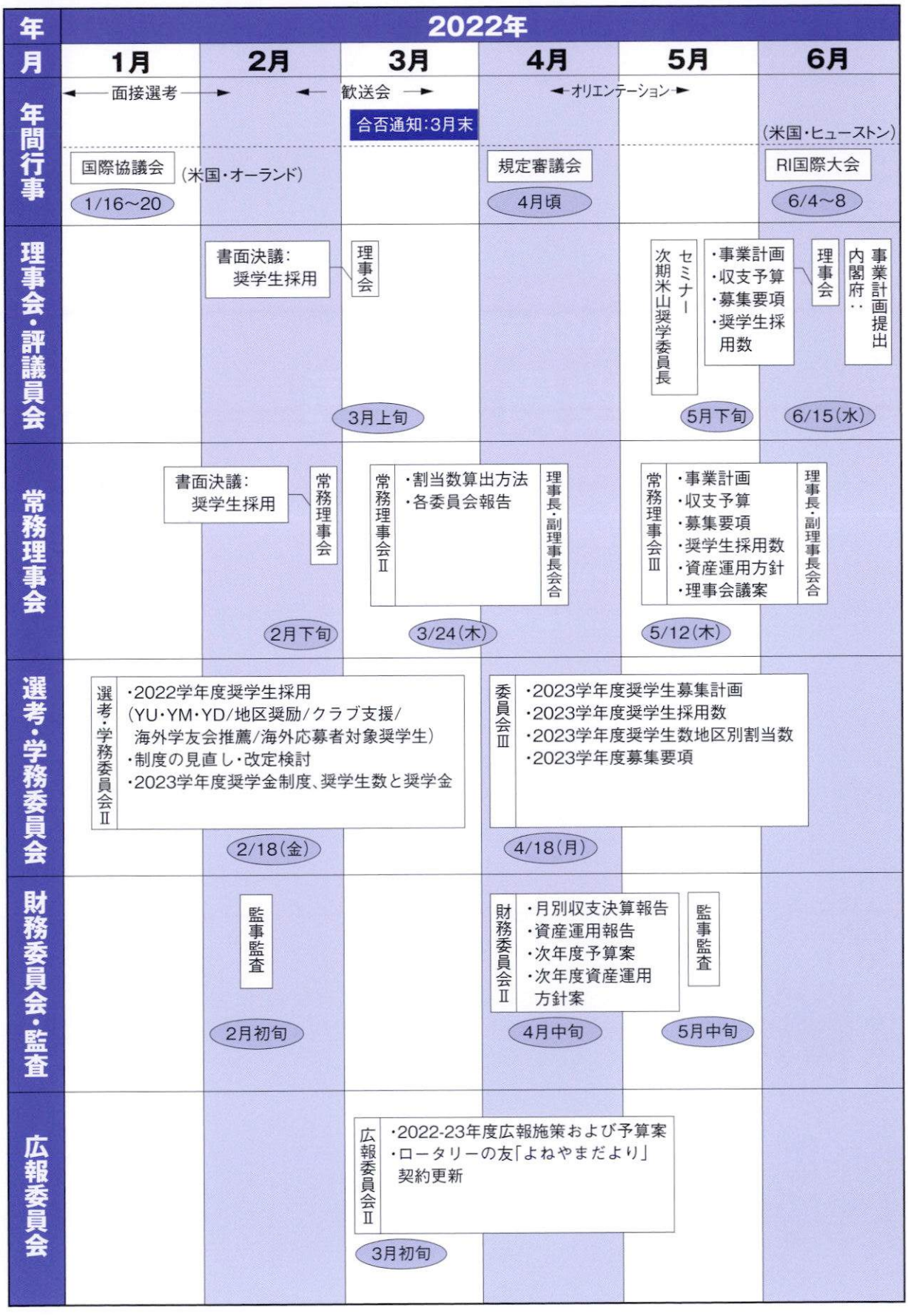
経常費用



X. 主要年間計画表（1）2021（令和3）年7月～12月



X. 主要年間計画表（2）2022（令和4）年1月～6月



2020年度
役員・委員

理事および監事 59
評議員 61
専門委員会委員 62
米山記念奨学委員長・米山委員 63

理事および監事

（カッコ内…所属地区、ロータリー・クラブ）

理事長



齋 藤 直 美
（2760 豊田）

副理事長



山 崎 淳 一
（2830五所川原）



水 野 功
（2750東京飛火野）

常務理事



井原 實
（2770さいたま新都心）



相澤 光春
（2780ふじさわ湘南）



滝澤 功治
（2680神戸須磨）



駒井 英基
（2740佐賀南）

監事



飯村 愼一
（2550宇都宮90）



高良 明
（2590川崎西）

理事


東堂　明
(2500旭川北)


嵯峨　義輝
(2510岩見沢)


桑原　茂
(2520塩釜)


鈴木　邦典
(2530白河)


地葉　新司
(2540潟上)


栃木　秀麿
(2550足利わたらせ)


新保　清久
(2560新潟万代)


大久保章宏
(2800山形南)


加藤　玄静
(2570本庄)


鈴木　孝雄
(2580東京池袋)


大野　清一
(2590横浜東)


島田甲子雄
(2600上田)


崎山　武夫
(2610氷見)


井上　雅雄
(2620甲府南)


関口　徳雄
(2790浦安)


北村　仁
(2820水海道)


竹内　正幸
(2840太田)


辻　正敏
(2630津)


村上　有司
(2640田辺)


北河原公敬
(2650奈良大宮)


山本　博史
(2660大阪南)


稲山　三治
(2670徳島プリンス)


佐藤　芳郎
(2690岡山南)


吉田　知弘
(2700福岡東)

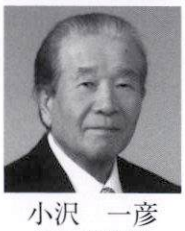

吉原　久司
(2710尾道)


岡村　泰岳
(2720大分中央)


押川　弘巳
(2730宮崎北)


若林　紀男
(2660大阪東)

名誉理事長

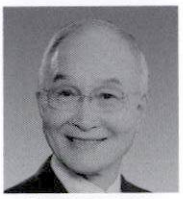

小沢　一彦
(2780横須賀)
理事長在任期間2014～2018年

評議員


成瀬　則之
(2500網走)


安孫子建雄
(2510江別)


濱守　豊秋
(2520大船渡西)


渡邉　公平
(2530いわき勿来)


平澤　孝夫
(2540秋田東)


羽石　光臣
(2550宇都宮東)


佐々木昌敏
(2560小千谷)


和田　廣
(2800南陽東)


佐々木千佳子
(2830十和田)


細井　保雄
(2570行田さくら)


上山　昭治
(2580東京武蔵野中央)


湯川　孝則
(2590横浜西)


望月　宗敬
(2600松本)


炭谷　亮一
(2610金沢百万石)


積　惟貞
(2620沼津)


猿渡　昌盛
(2750東京武蔵府中)


神野　重行
(2760名古屋名駅)


田中德兵衛
(2770川口)


山地　裕昭
(2780足柄)


宇佐見　透
(2790千葉幕張)


佐藤　衛
(2820水戸南)


田中　久夫
(2840高崎)


桑月　心
(2630高山)


成川　守彦
(2640有田)


橋本　長平
(2650京都東)


松本　進也
(2660大阪北)


豊田　章二
(2670高松南)


丸尾　研一
(2680神戸西神)


伊藤　文利
(2690倉吉)


安増　惇夫
(2700宗像)


金子　克也
(2710福山南)


髙山泰四郎
(2720大分1985)


川原　篤雄
(2730鹿児島サザンウインド)


宮﨑　清彰
(2740諫早北)

専門委員会委員

財務委員会

担当理事：山崎淳一（2830五所川原）

委　員


平井　義郎
（2530福島中央）


沼田　廣
（2830青森）


古沢熙一郎
（2750東京日本橋）


森田　高史
（2840伊勢崎）


藤中　秀幸
（2710岩国中央）


瀧　満
（2720中津）

選考・学務委員会

担当理事：水野　功（2750東京飛火野）
　　井原　實（2770さいたま新都心）

委　員


大久保章宏
（2800山形南）


古川　静男
（2600松本西南）


鈴木　喬
（2580東京江北）

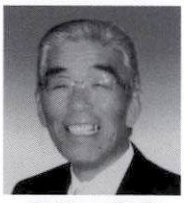

中川　基成
（2650あすか）


山本　博史
（2660大阪南）

広報委員会

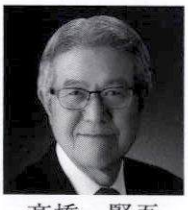
担当理事：相澤光春（2780ふじさわ湘南）

委　員


酒井　善盛
（2530南相馬）


鈴木　憲治
（2590川崎麻生）


田中　賢三
（2780茅ヶ崎）


髙橋　賢吾
（2820水戸西）


末長　範彦
（2690岡山）


灘谷　和德
（2700福岡平成）

米山記念奨学委員長・米山委員

地区	米山記念奨学委員長（所属RC）		米山委員					
			奨学生・学友担当（所属RC）		寄付増進担当（所属RC）		奨学生選考担当（所属RC）	
2500	小滝　達也	旭　川	石平　清美	富良野	松浦　信一	北見西	讃岐　武史	帯　広
2510	佐藤　竜也	北　斗	鷹架　諭	江　別	佐藤　竜也	北　斗	矢橋潤一郎	札幌東
2520	白鳥　淳	築　館	小原　正至	北　上	白鳥　淳	築　館	清水　努	塩　釜
2530	武島　昭良	相　馬	渡邊　英世	福島中央	竹下真紀子	いわき桜	佐藤壮一郎	二本松あだたら
2540	阿部　大助	秋田中央	阿部　大助	秋田中央	阿部　大助	秋田中央	阿部　大助	秋田中央
2550	長　正英	宇都宮陽北	小林　正明	宇都宮東	小原澤公康	足利わたらせ	田島　良久	馬頭小川
2560	中町　圭介	小千谷	鈴木　公子	柏崎中央	宮嶋　正明	新発田	野澤　修	新潟東
2800	芦野　茂	山形西	小玉富美子	鶴　岡	田中　隆一	米　沢	芦野　茂	山形西
2830	三浦　順子	弘前アップル	野坂　幸子	野辺地	高井　孝治	つがる	佐藤　一尚	青　森
2570	渡邊　藤男	熊谷南	永井　保之	本　庄	石井　成人	川　越	渡邊　藤男	熊谷南
2580	青木　宏義	東京新都心	加藤勇一郎	東京北	井上　義勝	東京葛飾東	前原　秀一	東京紀尾井町
2590	斉藤　正彦	川崎西	小野邊　薫	横浜あざみ	小又　義幸	川崎中央	橋田　章	神奈川
2600	町田　清	佐　久	丸山　勝	戸倉上山田	荒井　健治	松本南	川村ひとみ	佐久コスモス
2610	嶋田　登	小矢部	村谷　哲也	河北南	打出　孝彦	富山みらい	松崎　秀規	金　沢
2620	柳場　文彦	山　梨	渡辺　郁	甲府南	柳場　文彦	山　梨	川口　尚史	沼津柿田川
2750	宮崎陽市郎	東京三鷹	朴　貞子	東京米山友愛	相田　禎延	東京昭島	粕谷　啓之	東京調布むらさき
2760	大橋　均	知　立	高木　優州	愛知三州	武山　卓史	名古屋丸の内	高木　優州	愛知三州
2770	藤嶋　剛史	大宮西	一色　泉	さいたま新都心	島村　健	上　尾	一色　泉	さいたま新都心
2780	三荒　弘道	平　塚	早川　正彦	相模原中	矢部　房男	逗　子	今井　均	座　間
2790	森　秀樹	柏　南	山本　豊一	成田コスモポリタン	加藤　隆	千葉東	福田　秀人	浦　安
2820	木村美枝子	水戸好文	坏　愛子	水戸さくら	白岩　大樹	牛　久	村上　義孝	つくば学園
2840	板橋　一博	太　田	高沢　克治	伊勢崎中央	石井　嘉一	伊勢崎中央	大友　一之	桐　生
2630	伊藤　晃宏	鈴鹿シティ	佐野　寿	鈴鹿シティ	伊藤　晃宏	鈴鹿シティ	伊藤　晃宏	鈴鹿シティ
2640	玉井　洋司	田　辺	新本　憲一	堺おおいずみ	木村　勝次	田　辺	淡野　勝也	高　石
2650	下川　和馬	福知山西南	和田　光平	大　津	西田　一弘	京　都	河村　善一	橿　原
2660	末松　大幸	大阪淀川	坂田　妙子	池田くれは	魚谷　健司	大阪西南	松下　和彦	八尾中央
2670	津田　久敬	高知北	津田　久敬	高知北	秋山　佳弘	丸亀東	森　雄司	松山南
2680	武本　正照	尼崎北	武本　正照	尼崎北	竹内　博	西　宮	三宅　康雄	芦　屋
2690	岡田　信俊	鳥取西	福嶋裕美子	岡山西	亀井　朗	津　山	岡田　信俊	鳥取西
2700	島　信英	久留米東	今村　次美	太宰府	富永孝太朗	久留米東	尾畑　和隆	宗　像
2710	澤田　健規	防　府	長場　誠	広島中央	澤田　健規	防　府	澤田　健規	防　府
2720	江河　好洋	宇佐2001	古﨑　正倫	熊本東	立野　文生	熊本中央	山田　公也	熊本東南
2730	長嶺　貴臣	宮崎北	柳川　昌理	宮崎北	濵田　紘一	鹿児島城西	長嶺　貴臣	宮崎北
2740	松田　洋一	諫早北	本多　善彦	雲　仙	本村　一	佐賀西	高谷　信一	長崎出島

2021年度
奨学生・学友

国・地域別 奨学生・学友累計一覧 65

学友会一覧 66

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会組織図 67

職員 67

国・地域別 奨学生・学友　累計一覧（2021学年度）

2021 年 7 月現在　公益財団法人ロータリー米山記念奨学会

エリア	国・地域	2021 学年度 継続	2021 学年度 新規	学友	累計
アジア州 95.0%	中国	90	302	7,313	7,705
	韓国	28	58	4,563	4,649
	台湾	8	28	3,519	3,555
	ベトナム	32	87	1,117	1,236
	マレーシア	18	26	989	1,033
	インドネシア	12	19	450	481
	タイ	4	14	346	364
	バングラデシュ	5	10	340	355
	モンゴル	17	23	285	325
	ネパール	9	15	294	318
	スリランカ	3	9	283	295
	ミャンマー	2	7	220	229
	インド	0	5	132	137
	フィリピン	0	0	95	95
	カンボジア	6	7	73	86
	イラン	1	1	66	68
	ラオス	0	0	67	67
	トルコ	0	1	50	51
	パキスタン	2	1	31	34
	シンガポール	0	0	31	31
	アフガニスタン	1	0	17	18
	イスラエル	0	0	10	10
	シリア	0	2	3	5
	ヨルダン	0	0	3	3
	イエメン	0	0	2	2
	イラク	0	0	2	2
	パレスチナ	1	0	1	2
	クウェート	0	0	1	1
	サウジアラビア	0	0	1	1
	小計	239	615	20,304	21,158
大洋州 0.3%	オーストラリア	0	1	17	18
	パプアニューギニア	0	0	14	14
	ニュージーランド	0	0	11	11
	フィジー	0	0	9	9
	トンガ	0	0	5	5
	ソロモン諸島	0	0	2	2
	ツバル	0	0	1	1
	ニューカレドニア	0	0	1	1
	ミクロネシア	0	0	1	1
	小計	0	1	61	62
アフリカ州	エジプト	3	2	47	52
	ケニア	0	0	37	37
	ナイジェリア	3	0	19	22
	ガーナ	0	1	17	18
	ウガンダ	0	0	15	15
	カメルーン	0	0	14	14
	セネガル	0	1	12	13
	コートジボワール	1	0	11	12
	タンザニア	1	0	11	12
	チュニジア	0	1	8	9
	エチオピア	0	0	8	8
	コンゴ民主共和国	1	0	7	8
	モロッコ	1	0	6	7
	ザンビア	0	1	5	6
	ベナン	0	0	6	6
	マダガスカル	0	0	6	6
	スーダン	0	1	3	4
	エリトリア	0	0	3	3
	シエラレオネ	0	0	3	3
	ガボン	0	0	2	2
	ガンビア	1	0	1	2
	マリ	0	0	2	2
	モザンビーク	0	0	2	2
	リビア	0	0	2	2
	リベリア	0	0	2	2
	ルワンダ	0	0	2	2
	南アフリカ	0	0	2	2
	ギニアビサウ	0	0	1	1
	コンゴ共和国	0	0	1	1
	セーシェル	0	0	1	1
アフリカ州 1.3%	トーゴ	0	0	1	1
	中央アフリカ	0	0	1	1
	小計	11	7	258	276
	ロシア	0	1	59	60
	ドイツ	1	0	43	44
	フランス	1	3	40	44
	英国	0	2	36	38
	イタリア	2	1	30	33
	ウズベキスタン	2	3	21	26
	スペイン	0	1	18	19
	スウェーデン	0	2	14	16
	カザフスタン	0	1	12	13
	ウクライナ	0	0	12	12
	ルーマニア	0	1	10	11
	スイス	0	0	8	8
	ポーランド	0	1	7	8
	オーストリア	0	0	5	5
	フィンランド	0	2	3	5
	ベルギー	0	0	5	5
	アルバニア	0	0	4	4
	オランダ	0	0	4	4
	ブルガリア	0	0	4	4
ヨーロッパ州・NIS 諸国 1.8%	ラトビア	0	0	4	4
	リトアニア	1	0	3	4
	キルギス	0	0	3	3
	チェコ	0	0	3	3
	トルクメニスタン	0	0	3	3
	ハンガリー	0	1	2	3
	アゼルバイジャン	0	0	2	2
	クロアチア	0	0	2	2
	ジョージア	1	0	1	2
	スロバキア	0	0	2	2
	セルビア	0	0	2	2
	タジキスタン	0	0	2	2
	デンマーク	0	0	2	2
	ノルウェー	0	0	2	2
	ベラルーシ	0	0	2	2
	旧ユーゴスラビア共和国	0	0	2	2
	マケドニア旧ユーゴスラビア共和国	0	0	2	2
	アイルランド	0	0	1	1
	アルメニア	0	0	1	1
	エストニア	0	0	1	1
	小計	8	19	377	404
	米国	0	2	118	120
	ブラジル	0	1	89	90
	メキシコ	1	2	38	41
	ペルー	0	0	26	26
	カナダ	0	2	23	25
	アルゼンチン	0	0	17	17
	コロンビア	0	1	6	7
	ベネズエラ	0	0	7	7
	チリ	0	0	6	6
北・南アメリカ州 1.6%	ボリビア	0	0	6	6
	コスタリカ	0	0	3	3
	エクアドル	0	0	2	2
	エルサルバドル	0	0	2	2
	グアテマラ	0	0	2	2
	ドミニカ共和国	1	0	1	2
	パラグアイ	0	0	2	2
	ホンジュラス	0	0	2	2
	キューバ	0	0	1	1
	ハイチ	0	0	1	1
	バハマ	0	0	1	1
	小計	2	8	353	363
無国籍	無国籍	0	0	4	4
総計		260	650	21,357	22,267
今年度国・地域数：54　/ 累計：129		910			

1.「国・地域」の表示順は、累計数の多い順。
2.「国・地域」の表記は、外務省の表記に準拠した。
3. 香港が中国に返還される前（1998学年度以前）に奨学生に採用された者は、香港（地域）でカウントしていたが、上記表では、香港は中国に含む。
4. マカオが中国に返還される前（2000学年度以前）に奨学生に採用された者は、マカオ（地域）でカウントしていたが、上記表では、マカオは中国に含む。
5. ロシア・NIS諸国（New Independent States）：旧ソ連新独立国のうち、エストニア、ラトビア、リトアニアを除く12カ国。
6. 2014学年度から無国籍は累計国数に含めない。

学友会一覧

■ 国内学友会 ： 33団体/34ロータリー地区　　2021年8月現在

国内学友会	設立年月	
北海道 (2500/2510)	1998年12月	
岩手・宮城 (2520)	2004年6月30日 設立総会	2004年10月承認
福島 (2530)	1996年11月	
秋田 (2540)	2007年5月20日 設立総会	2007年7月承認
栃木 (2550)	学友会（北関東） 1986年11月	1994年独立
新潟 (2560)	1996年6月	
埼玉西北部 (2570)	学友会（関東） 1985年11月	1993年独立
埼玉南東部 (2770)	学友会（関東） 1985年11月	1993年独立
千葉 (2790)	学友会（関東） 1985年11月	1993年独立
山形 (2800)	2009年8月22日 設立総会	2009年11月承認
茨城 (2820)	学友会（北関東） 1986年11月	1994年独立
青森 (2830)	2008年7月13日 設立総会	2008年11月17日 承認
群馬 (2840)	1996年6月	ロータリー地区分割 のため 2000年7月独立
東京 (2580)	学友会（関東）1985年11月	
神奈川 (2590) 川崎・横浜市	学友会（関東） 1985年11月	1993年独立
長野 (2600)	2004年5月承認	
富山・石川 (2610)	2005年12月承認	

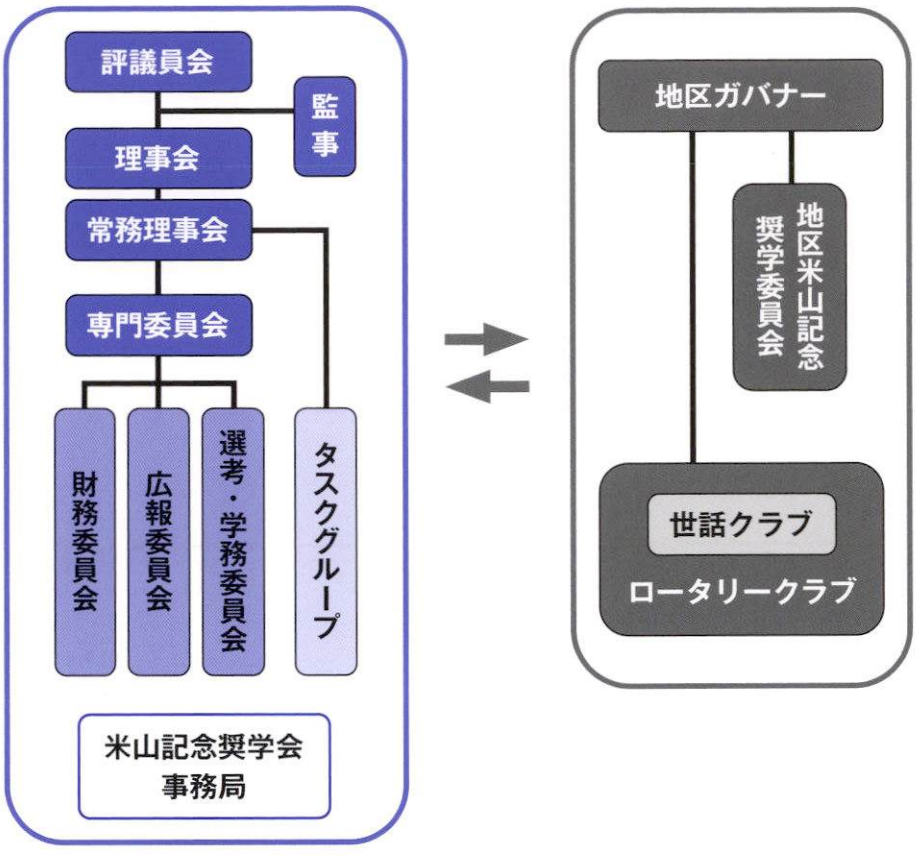
国内学友会	設立年月	
山梨・静岡 (2620)	2009年3月1日 設立総会	2009年3月10日 承認
岐阜・三重 (2630)	2000年5月	
東京西南部 (2750)	2016年5月10日 承認	2016年6月11日 設立総会
愛知 (2760)	1997年6月	
神奈川 (2780) 川崎・横浜市以外	学友会（関東） 1985年11月	1993年独立
大阪南部・和歌山 (2640)	学友会（関西） 1986年5月	1996月6月独立
京都・福井・ 滋賀・奈良 (2650)	学友会（関西） 1986年5月	2001年7月独立
関西（2660） 大阪北部	学友会（関西）1986年5月	
徳島・香川・ 愛媛・高知 (2670)	2003年10月承認	
兵庫 (2680)	学友会（関西） 1986年5月	2004年5月 独立承認
鳥取・島根・岡山 (2690)	2005年11月承認	
九州（2700）	学友会（西日本）1988年7月	
広島・山口 (2710)	学友会（西日本） 1988年7月	1999年5月独立
大分・熊本 (2720)	2015年12月10日 承認	2016年2月7日 設立総会
宮崎・鹿児島 (2730)	学友会（西日本） 1988年7月	2008年2月独立
佐賀・長崎 (2740)	2012年4月7日 設立総会	2013年5月8日 承認

■ 海外学友会 ： 9団体

海外学友会	設立年月	
社団法人 中華民国 扶輪米山会 （台湾学友会）	1983年1月発足 2002年12月20日社団法人認定	
韓国学友会	1989年6月発足	
中国学友会	2009年3月28日 設立総会	2009年4月16日 承認
タイ学友会	2012年3月25日 設立	2012年11月21日 承認

海外学友会	設立年月	
ネパール学友会	2013年10月19日 設立	2013年11月28日 承認
モンゴル学友会	2014年3月1日 設立	2014年3月27日 承認
スリランカ学友会	2016年6月9日 承認	2016年6月25日 設立
マレーシア学友会	2016年9月12日 設立	2016年12月6日 承認
ミャンマー学友会	2017年2月25日 設立	2016年12月6日 承認

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会　組織図



＊各種問合せ等は従来通り、奨学会事務局までご連絡下さい。

職員

事務局長	柚木　裕子	選考・学務	桒原めぐみ
事務局次長	峯　純子		米山　惠莉
財務・経理	加藤いずみ	学務・学友	北村　聡子
寄付増進	大庭　陽子	広報・企画	野津美由紀
システム	森　尚子		



Rotary Districts of Japan

公益財団法人
ロータリー米山記念奨学会
ロータリー日本国内全地区合同プロジェクト

〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15　黒龍芝公園ビル 3 階
TEL(03)3434-8681　　FAX(03)3578-8281
ホームページ http://www.rotary-yoneyama.or.jp/

FSC www.fsc.org
ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C017759

RYS.3T.21-9